

令和2年度

事業年報

公益財団法人 岡山県健康づくり財団

は じ め に

当財団は平成3年8月に設立されて以来、県民皆様の疾病予防や健康づくりを支援するとともに県や市町村の保健衛生、環境施策を補完する事業により地域に貢献することを目指して、健康診断事業をはじめ、各種環境検査事業、病院事業、健康づくり支援事業等に取り組んでまいりました。

この冊子は、当財団の令和2年度における事業内容の記録として作成したものであります。

ご高覧のうえご指導を賜りますとともに業務の参考としていただければ幸甚に存じます。

今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 松山正春

目 次

I	事業内容	1
II	役員名簿	2
III	組織	
1	組織図	3
2	職種別、組織別職員数	4
IV	事業報告	
1	保健部	5
(1)	住民健診	5
1.	特定健診・後期高齢者健診	5
2.	肝炎ウイルス検査	7
(2)	保健指導	8
(3)	一般健康診断	9
(4)	特殊健康診断	10
(5)	胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）	11
(6)	胃がん検診	15
(7)	子宮がん検診	18
(8)	乳がん検診	21
(9)	大腸がん検診	24
(10)	前立腺がん検診	27
(11)	骨粗鬆症検診	29
(12)	学校保健検査	30
1.	尿検査	30
2.	寄生虫検査	32
3.	貧血検査	33
4.	心臓検診	34
5.	小児生活習慣病予防健診	35
(13)	先天性代謝異常等検査	37
2	環境部	39
(1)	飲料水検査	39
(2)	簡易専用水道検査	40

(3) 浄化槽法定検査	4 1
(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査	4 3
(5) 産業排水検査	4 4
(6) 河川水検査	4 6
(7) 食品検査	4 7
(8) 腸内細菌検査等	4 9
(9) その他の検査	5 0
3 精度管理室	5 1
4 食鳥検査事業	5 4
5 附属病院	5 7
(1) 外来状況	5 7
(2) 入院状況	5 8
(3) リハビリテーション	5 9
(4) 先進の医療機器による検査	5 9
(5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供	5 9
(6) 地域連携の推進	6 0
(7) 結核医療連携拠点病院の指定	6 0
(8) 指導・相談	6 0
(9) 財団各部門との連携	6 1
(10) 難病相談・支援事業	6 1
6 南部健康づくりセンター	6 2
(1) 健康増進事業	6 2
1. ヘルスチェックの状況	6 2
2. 増進施設利用状況	6 4
3. お手軽教室	6 5
4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室	6 7
5. リラクゼーションセミナー	6 8
6. 健康増進指導体験事業	6 8
(2) 教育・研修部門事業など	6 9
1. 講師派遣事業	6 9
2. 図書の貸し出し	7 0
3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室	7 0

4. 研究室の開放	70
(3) 調査・研究事業	71
1. 業績	71
(4) 健康診断（人間ドック）部門	72
1. 人間ドック	72
2. 脳ドック	78
3. らせんCT胸部検診	78
(5) 健康診断（施設健診）部門	79
1. 健診種別件数	79
2. 岡山市がん検診要精密検査数	79
3. 特定健診保健指導対象者数	79
7 普及啓発事業	80
(1) 財団の広報	80
(2) 結核予防に関する事業	80
(3) がん予防に関する事業	81
(4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）	82
(5) 助成事業	83
(6) 会議等の開催	84

I 事業内容

- (1) 健康づくり及び結核、がん、循環器疾患等の予防に関する知識の普及啓発及び調査研究
- (2) 健康づくりの実践活動に対する指導及び援助
- (3) 結核、がん、生活習慣病等の健康診査
- (4) 保健及び医療に関する情報の収集及び提供
- (5) 保健医療従事者及び健康づくり指導者の養成及び研修
- (6) 結核及び呼吸器疾患を中心とする医療
- (7) 保健及び医療に関する臨床検査
- (8) 食品衛生に関する試験検査
- (9) 浄化槽法定検査事業
- (10) 飲料水水質の試験検査
- (11) 簡易専用水道検査事業
- (12) 環境計量証明事業
- (13) その他生活環境の保全に関する試験検査
- (14) 食鳥検査事業
- (15) その他財団の目的を達成するために必要な事業

II 役員名簿

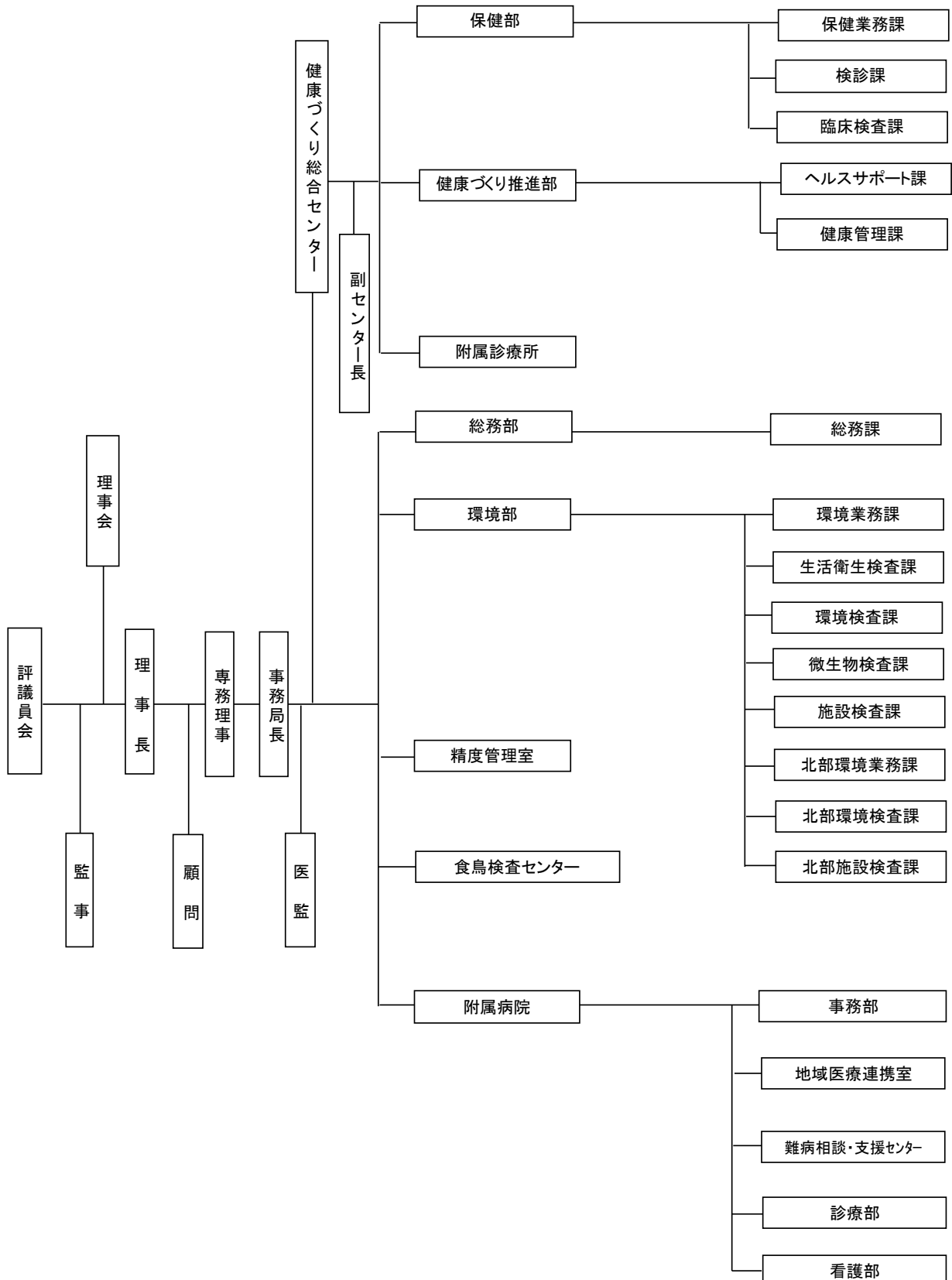
令和2年4月1日現在

役職名	氏名	備考
評議員	中谷 祐貴子	岡山県保健福祉部長
〃	清水 信義	岡山県医師会副会長
〃	難波 義夫	岡山県病院協会会長
〃	三浦 寛人	岡山市医師会長
〃	宮本 亨	津山市医師会長
〃	浅沼 幹人	岡山大学医学部長
〃	内山 登	岡山県議会議員
〃	福永 仁夫	川崎医科大学長
〃	酒井 昭則	岡山県歯科医師会長
〃	堀部 徹	岡山県薬剤師会長
〃	片岡 聡一	岡山県市長会長
〃	山崎 親男	岡山県町村会長
〃	岡崎 文代	岡山県愛育委員連合会長
〃	中島 玲子	岡山県栄養改善協議会長
理事長 (代表理事)	松山 正春	岡山県医師会長
専務理事 (業務執行理事)	渡邊 知美	岡山県健康づくり財団専務理事
理事	阪本文雄	山陽新聞社会事業団専務理事
〃	岡崎 邦泰	日本乳がん検診学会名誉会員
〃	坂本 八千代	岡山県栄養士会長
〃	宮田 明美	岡山県看護協会会長
〃	佐藤 利雄	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センターセンター長
〃	二宮 忠矢	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター副センター長
〃	守安 秀徳	岡山県健康づくり財団環境部長
〃	西井 研治	医監 (兼)岡山県健康づくり財団附属病院長
〃	岸本 寿男	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター保健部長
〃	関 明徳	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター健康づくり推進部長
監事	有本 耕平	弁護士
〃	小川 洋一	公認会計士・税理士

III 組織

1 組織図

令和2年4月1日現在



2 職種別・組織別職員数

令和2年4月1日現在

	事務職	医師	保健師・ 看護師・ 准看護師	放射線 技師	臨床 検査技師	理学 療法士	環境 検査技師	薬剤師	栄養士・ 調理員	介護職	運動 指導員等	食鳥 検査員	合 計
総務部	16												16
保健部	40	4	27	14	20	2							107
環境部 精度管理室	15				1		63						79
食鳥検査 センター	1						1					15	17
附属病院	13	5	44	1	1	2		2	12	12			92
健康づく り推進部	14	4	9	6	4				2		5		44
合 計	99	13	80	21	26	4	64	2	14	12	5	15	355

IV 事業報告

1 保健部

(1) 住民健診

1. 特定健診・後期高齢者健診

1) 健診概要

目的：生活習慣病の予防

対象：特定健診：医療保険加入者で、実施年度中に40～75歳になる者
後期高齢者健診：76歳以上の者

補足)・対象年齢の誕生日以前等での振り分けは各市町によって異なる。

・医療保険加入者：国保加入者及び、被用者保険の被扶養者を対象として集計している。

2) 実施状況

12市町から委託を受け、10,574人の健診を実施し、前年度に比べ5,661人(34.9%)の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
特定健診	国保	11,552	10,943	8,979	8,760	5,541
	他健保	4,502	5,446	4,683	3,559	2,852
	その他	346	351	336	310	169
後期高齢者健診		3,483	3,740	3,608	3,606	2,012
計		19,883	20,480	17,606	16,235	10,574

② メタボリックシンドローム判定内訳（国保、他健保）

（人）

区分	性別	受診者数	メタボリックシンドローム判定結果内訳					
			該当		予備群		非該当	
国保	男性	2,305	626	27.2 %	402	17.4 %	1,277	55.4 %
	女性	3,236	263	8.1 %	210	6.5 %	2,763	85.4 %
他健保	男性	136	37	27.2 %	29	21.3 %	70	51.5 %
	女性	2,716	157	5.8 %	110	4.1 %	2,449	90.2 %
合計	男性	2,441	663	27.2 %	431	17.7 %	1,347	55.2 %
	女性	5,952	420	7.1 %	320	5.4 %	5,212	87.6 %
	計	8,393	1,083	12.9 %	751	8.9 %	6,559	78.1 %

3) 健診方法

① 健診項目

- ・基本的な健診の項目

問診

身体計測（身長、体重、腹囲、BMI。後期高齢者健診は腹囲なし）

理学的所見（身体診察）

血圧（収縮期血圧、拡張期血圧）

血中脂質検査（中性脂肪、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール）

肝機能検査（AST、ALT、 γ -GTP）

血糖検査（空腹時血糖、ヘモグロビンA1c。いずれかの項目の実施で可）

尿検査（尿糖、尿蛋白）

- ・詳細な健診の項目（医師の判断による追加項目）

貧血検査（赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値）

心電図検査

眼底検査

② メタボリックシンドロームの判定基準

- ・必須条件

腹囲： 男性 85 cm以上、女性 90 cm以上

- ・以下のうち2つ以上が該当

血糖： 空腹時血糖 110 mg/dl 以上、随時の場合は HbA1c 6.0%以上

脂質： 中性脂肪 150 mg/dl 以上、または HDL-コレステロール 40 mg/dl 未満

血圧： 収縮期 130 mmHg 以上、または 拡張期 85 mmHg 以上

※脂質・血圧は、いずれかまたは両方

2. 肝炎ウイルス検査

1) 検査概要

目的： B型・C型肝炎から肝硬変・肝がん等に悪化するのを予防するため
(B型・C型肝炎の早期発見、早期治療)

対象： 当年度 40 歳になる者 (節目検診) 又は過去に受診したことがない者

2) 実施状況

12 市町から委託を受け実施した。

B型肝炎検査は、778 人の健診を実施し、前年度に比べ 400 人 (66.0%) の減少であった。

C型肝炎検査は、778 人の健診を実施し、前年度に比べ 400 人 (66.0%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
肝炎ウイルス検査	B型肝炎検査	1,430	1,470	1,160	1,178	778
	C型肝炎検査	1,431	1,471	1,157	1,178	778

② 陽性率

B型肝炎検査： 陽性者数は 4 人で、陽性率は 0.51% であった。

C型肝炎検査： 感染者数は 0 人で、感染率は 0.00% であった。

3) 検査方法

B型肝炎検査： HB s 抗原検査 (定性)

C型肝炎検査： 問診、HCV 抗体検査 (CLEIA 法)、HCV コア蛋白測定による HCV 抗原検査、HCV-RNA 定量検査

(2) 保健指導

1) 指導概要

目的：対象者が自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善のための自主的な取り組みを継続的に行うことができるよう支援する

対象：健康診断の結果、健康の保持に努める必要がある者
ただし、特定保健指導については医療保険者により、動機づけ支援または積極的支援に階層化された者

2) 実施状況

地域では371人の保健指導を実施し、前年度に比べ63人（14.5%）の減少であった。
職域では1,624人の保健指導を実施し、前年度に比べ145人（9.8%）の増加であった。
全体では前年度に比べ82人（4.3%）の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
地域	263	214	248	434	371
職域	1,285	1,403	1,660	1,479	1,624
計	1,548	1,617	1,908	1,913	1,995

② 年齢階層別実施状況

(人)

積極的支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	17	23	14	0	54
	女性	3	1	6	0	10
職域	男性	359	306	41	0	706
	女性	63	45	25	0	133
計		442	375	86	0	903
動機付け支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	3	7	64	92	166
	女性	7	6	63	65	141
職域	男性	211	176	60	14	461
	女性	131	128	57	8	324
計		352	317	244	179	1,092
その他保健指導		39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
職域	男性	71	0	0	0	71
	女性	41	0	1	0	42
計		112	0	1	0	113

3) 指導方法

期間：6ヵ月間

支援：面接 … 個別または8人以下のグループ

通信 … 手紙、メール、電話

(3) 一般健康診断

1) 健診概要

目的：事業所就業者の健康管理と疾病の早期発見

対象：事業所就業者

2) 実施状況

72,844人の健診を実施し、前年度に比べ21,686人(22.9%)の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
実施人員	91,803	92,157	94,509	94,530	72,844

3) 健診方法

① 健診項目

労働安全衛生法で定める検査項目を基本としている。

② 健診区分

区分	時期	項目	備考
雇入れ時	雇入れ時	① 既往、業務歴の調査 ② 自他覚症状	労働者の採用時に実施
一般	1年以内に1回	③ 身長、体重、BMI 腹囲、視力、聴力 ④ 胸部X線、喀痰 ⑤ 血圧、尿糖、尿蛋白 ⑥ 貧血検査 ⑦ 肝機能検査 ⑧ 血中脂質検査 ⑨ 血糖検査 ⑩ 心電図検査	④を除き特定業務従事者等は6ヶ月以内に1回

(4) 特殊健康診断

1) 健診概要

目的： 特定の有害業務に従事する就業者を対象とした健康管理

対象： 有害業務従事者

2) 実施状況

12,282人の健診を実施し、前年度に比べ669人(5.2%)の減少であった。

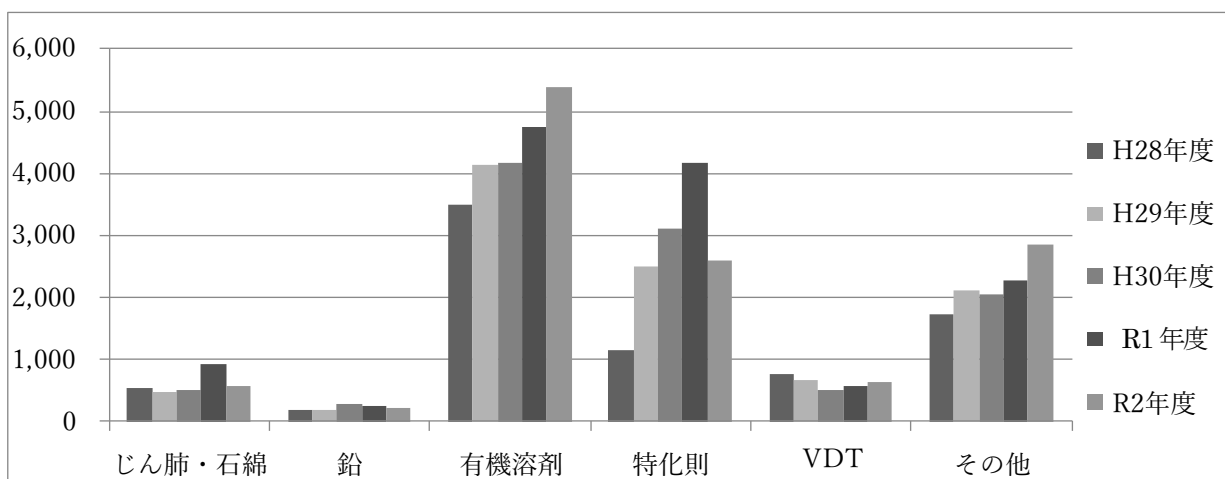
① 項目別実施状況

じん肺・石綿健診は566人、鉛健診は235人、有機溶剤健診は5,377人
 特定化学物質健診は2,591人、VDT健診は649人、その他健診は2,864人であった。

② 項目別受診者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
じん肺・石綿	525	479	501	919	566
鉛	182	197	277	254	235
有機溶剤	3,478	4,127	4,179	4,754	5,377
特化則	1,143	2,490	3,122	4,179	2,591
VDT	753	684	495	579	649
その他	1,713	2,102	2,055	2,266	2,864
計	7,794	10,079	10,629	12,951	12,282



3) 健診方法

労働安全衛生法及びじん肺法で定める検査項目を基本としている。

(5) 胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）

1) 検診概要

目的：「結核」の早期発見、まん延防止及び「肺がん」の早期発見、死亡率低下
対象：「結核」は65歳以上の住民、労働安全衛生法による定期健診対象者及び
感染症法による対象者、「肺がん」は40歳以上の住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では26,865人の検診を実施し、前年度に比べ21,364人（44.3%）の減少であった。
職域及び各種学校では59,820人の検診を実施し、前年度に比べ4,204人（7.5%）の増加であった。

全体では前年度に比べ17,160人（16.5%）の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
地域	62,482	58,966	49,473	48,229	26,865
職域	41,560	39,712	40,749	39,281	59,820
各種学校	21,164	20,338	18,736	16,335	
計	125,206	119,016	108,958	103,845	86,685

※R2より職域と各種学校を統合

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率（各種学校の読影のみ除く）

要精検者数は1,542人で、要精検率は1.8%であった。

③ 精検受診率（各種学校除く）

精検受診者数は1,077人で、精検受診率は69.8%であった。

④ がん発見率（各種学校除く）

発見された人数は36人で、発見率は0.04%であった。

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
がん発見者数	27	25	17	16	36
がん発見率	0.03%	0.03%	0.02%	0.02%	0.04%

3) 検診方法

① 検診項目

結核検診：胸部X線デジタル撮影

肺がん検診：問診、胸部X線デジタル読影、喀痰細胞診（問診で喫煙指数600以上の者または6ヶ月以内に血痰のあった者、いずれかに該当する者）

② 判定方法

胸部疾患専門医師2名による二重読影を行う。
肺がん検診では読影結果に基づき比較読影を実施する。

③ 判定区分

異常なし：所見なし（有所見を含む）
経過観察：精密検査は不要だが経過を観察する
要精検：病変の発見及びその疑いがある

別表1 胸部X線検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳									
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要医療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
男	～39	143	1											
	40～44	157	1	1									1	
	45～49	186	3	1										1
	50～54	185	4	2									2	
	55～59	183	5	4									3	1
	60～64	426	10	7					1				5	1
	65～69	1,312	40	27	1	1					2		16	7
	70～74	2,802	75	65	2	2					1		38	22
	75～79	2,253	90	80	2	2			2		6		45	23
	80～	2,127	115	93	4	8			2		3		61	15
	不明													
計	9,774	344	280	9	13	0	0	5	0	12	0	171	70	
女	～39	154	1	1									1	
	40～44	369												
	45～49	506	3	1									1	
	50～54	563	5	5		2							1	2
	55～59	841	13	12							1		7	4
	60～64	1,449	28	19							2		10	7
	65～69	2,838	66	52		1					1		26	24
	70～74	4,708	119	105	2	3			5		3		49	43
	75～79	3,209	109	94	1	2			3				50	38
	80～	2,454	93	73	2	4			4				41	22
	不明													
計	17,091	437	362	5	12	0	0	12	0	7	0	186	140	
合計	26,865	781	642	14	25	0	0	17	0	19	0	357	210	

別表2 胸部X線検診年齢階層別実施状況（職域及び各種学校）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳									
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要医療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
男	～39	18,725	71	36							3		16	20
	40～44	2,056	16	8									5	5
	45～49	2,416	24	13							3		8	3
	50～54	1,979	31	16	2								8	7
	55～59	1,589	31	19							1		12	6
	60～64	1,452	47	28	1						2		18	7
	65～69	1,016	44	21	1						2		16	4
	70～74	629	33	13	1						1		7	5
	75～79	237	15	9									8	1
	80～	500	51	23	3	1					1		14	4
	不明													
計	30,599	363	186	8	1	0	0	0	0	13	0	112	62	
女	～39	17,708	49	23	1				1		2		9	10
	40～44	1,596	9	6	1								5	1
	45～49	2,011	15	8									6	2
	50～54	1,701	31	22	1								13	8
	55～59	1,501	33	23	2						2		11	8
	60～64	1,253	26	18		1			1		1		7	8
	65～69	669	34	22		1					1		15	5
	70～74	394	15	9	1								7	1
	75～79	242	9	6					1		2		1	2
	80～	2,146	177	112	8	3		1	1		2		87	10
	不明													
計	29,221	398	249	14	5	0	1	4	0	10	0	161	55	
合計	59,820	761	435	22	6	0	1	4	0	23	0	273	117	

別表3 喀痰細胞診年齢階層別実施状況(地域)

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍細胞疑い	悪性腫瘍細胞あり
男	～39						
	40～44	3		3			
	45～49	1		1			
	50～54	6		6			
	55～59	9		9			
	60～64	29		29			
	65～69	76	1	75			
	70～74	181	1	179	1		
	75～79	131	2	129			
	80～	109	1	107		1	
	不明						
計	545	5	538	1	1	0	
女	～39						
	40～44	1		1			
	45～49	1		1			
	50～54	2		2			
	55～59	5		5			
	60～64	6		6			
	65～69	4		4			
	70～74	21		21			
	75～79	22		22			
	80～	16	1	15			
	不明						
計	78	1	77	0	0	0	
合計	623	6	615	1	1	0	

別表4 喀痰細胞診年齢階層別実施状況(職域)

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍細胞疑い	悪性腫瘍細胞あり
男	～39	1		1			
	40～44	1		1			
	45～49	1		1			
	50～54	10		10			
	55～59	7		7			
	60～64	10	2	8			
	65～69	6		6			
	70～74	3		3			
	75～79	1		1			
	80～	2		2			
	不明						
計	42	2	40	0	0	0	
女	～39						
	40～44	1		1			
	45～49						
	50～54						
	55～59	3	1	2			
	60～64						
	65～69	1		1			
	70～74						
	75～79						
	80～						
	不明						
計	5	1	4	0	0	0	
合計	47	3	44	0	0	0	

(6) 胃がん検診

1) 検診概要

目的： 胃がんの早期発見

対象： 原則として 40 歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 3,767 人の検診を実施し、前年度に比べ 3,966 人 (51.3%) の減少であった。

職域では 5,659 人の検診を実施し、前年度に比べ 425 人 (7.0%) の減少であった。

全体では前年度に比べ 4,931 人 (31.8%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1年度	R2 年度
地域	13,833	12,376	8,834	7,733	3,767
職域	7,257	6,885	6,401	6,084	5,659
計	21,090	19,261	15,235	13,817	9,426

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 546 人で、要精検率は 5.8% であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は 399 人で、精検受診率は 73.1% であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 8 人で、発見率は 0.08% であった。

内訳は男性 8 人、女性 0 人であった。

区分	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1年度	R2 年度
がん発見者数	19	25	13	17	8
がん発見率	0.09 %	0.13 %	0.09 %	0.12 %	0.08 %

3) 検診方法

① 検診項目

問診、胃部X線検査（日本消化器集団検診学会デジタル8枚撮影法）

② 判定方法

専門医師による二重読影（ダブルチェック）

③ 判定区分

異常なし： 所見なし（放置可を含む）

経過観察： 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検： 疑わしい所見がみられるため精密検査の必要がある

別表1 胃がん検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳												
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明	
男	～39																
	40～44	42	1	1	1												
	45～49	54	5	3	1					1						1	
	50～54	65	3	2								1				1	
	55～59	62	4	3	1							2					
	60～64	129	7	5			1					1	3				
	65～69	331	33	22	1		1			6	1	12				1	
	70～74	492	65	53	4	4			2	6	4	27				6	
	75～79	304	27	25	2	1				3	2	14				3	
	80～	261	24	20	2				2	4		10				2	
計	1,740	169	134	12	5	2	0	4	20	8	69	0	0	14	0		
女	～39																
	40～44	77	2	2	1							1					
	45～49	92	3	1	1											1	
	50～54	96	3	3	1						1					1	
	55～59	135	1	1												1	
	60～64	246	8	6					2		3					1	
	65～69	421	15	13	2				1		6					4	
	70～74	513	28	24	2				2	3	15					2	
	75～79	263	11	8	1				1	1	5						
	80～	184	18	13					2	1	1	6				3	
計	2,027	89	71	8	0	0	0	5	8	1	36	1	0	12	0		
合計	3,767	258	205	20	5	2	0	9	28	9	105	1	0	26	0		

別表2 胃がん検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳													
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明		
男	～39	838	35	30	6					1	2	2	14			5		
	40～44	645	18	14	6						2	1	2			3		
	45～49	823	35	21	3						7	2	5			4		
	50～54	657	38	22	5						3		12		1	1		
	55～59	516	35	22	4	1					2	1	10			4		
	60～64	417	42	28	3	2				2	6	1	12			2		
	65～69	185	23	16	2				1	2	2	2	9					
	70～74	56	11	8							1		5			2		
	75～79	8	1															
	80～	4	1															
不明																		
計	4,149	239	161	29	3	0	0	4	25	9	69	0	1	21	0			
女	～39	223	5	4	1							1			2			
	40～44	247	6	4	1					1		2						
	45～49	328	16	11	1					3		5			2			
	50～54	234	8	6	1							2			3			
	55～59	214	6	3						1	1	1						
	60～64	170	4	3	1							1			1			
	65～69	68	2	1								1						
	70～74	22	2	1							1							
	75～79	4																
	80～																	
不明																		
計	1,510	49	33	5	0	0	0	0	6	1	13	0	0	8	0			
合計	5,659	288	194	34	3	0	0	4	31	10	82	0	1	29	0			

別表3 胃がん検診年齢階層別実施状況（合計）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳												
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明	
男	～39	838	35	30	6	0	0	0	1	2	2	14	0	0	5	0	
	40～44	687	19	15	7	0	0	0	0	2	1	2	0	0	3	0	
	45～49	877	40	24	4	0	0	0	0	8	2	5	0	0	5	0	
	50～54	722	41	24	5	0	0	0	0	3	0	13	0	1	2	0	
	55～59	578	39	25	5	1	0	0	0	2	1	12	0	0	4	0	
	60～64	546	49	33	3	2	1	0	2	6	2	15	0	0	2	0	
	65～69	516	56	38	3	0	1	0	1	8	3	21	0	0	1	0	
	70～74	548	76	61	4	4	0	0	2	7	4	32	0	0	8	0	
	75～79	312	28	25	2	1	0	0	0	3	2	14	0	0	3	0	
	80～	265	25	20	2	0	0	0	2	4	0	10	0	0	2	0	
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	5,889	408	295	41	8	2	0	8	45	17	138	0	1	35	0		
女	～39	223	5	4	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	
	40～44	324	8	6	2	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	
	45～49	420	19	12	2	0	0	0	0	3	0	5	0	0	2	0	
	50～54	330	11	9	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	4	0	
	55～59	349	7	4	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	
	60～64	416	12	9	1	0	0	0	0	2	0	4	0	0	2	0	
	65～69	489	17	14	2	0	0	0	0	1	0	7	0	0	4	0	
	70～74	535	30	25	2	0	0	0	2	4	0	15	0	0	2	0	
	75～79	267	11	8	1	0	0	0	1	1	0	5	0	0	0	0	
	80～	184	18	13	0	0	0	0	2	1	1	6	0	0	3	0	
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	3,537	138	104	13	0	0	0	5	14	2	49	1	0	20	0		
合計	9,426	546	399	54	8	2	0	13	59	19	187	1	1	55	0		

(7) 子宮がん検診

1) 検診概要

目的：子宮頸がんの早期発見

対象：原則として20歳以上の女性で地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では12,110人の検診を実施し、前年度に比べ7,289人(37.6%)の減少であった。

職域では324人の検診を実施し、前年度に比べ56人(14.7%)の減少であった。
全体では前年度に比べ7,345人(37.1%)の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
地域	24,264	22,796	19,588	19,399	12,110
職域	573	418	376	380	324
計	24,837	23,214	19,964	19,779	12,434

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は68人で、要精検率は0.5%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は40人で、精検受診率は58.8%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は0人で、発見率は0.00%であった。

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
がん発見者数	2	7	1	4	0
がん発見率	0.01%	0.03%	0.01%	0.02%	0.00%

3) 検診方法

① 検診項目

問診（既往歴、家族歴等）、医師による視診・内診及び子宮頸部の細胞採取

② 判定方法

細胞診の判定は日本臨床細胞学会認定の細胞検査士がスクリーニングして、ASC-US 以上のものについて細胞診専門医が判定を行う。

③ 判定区分

細胞診判定	結果	推定される 病理診断	従来 of クラス分類
NILM	陰性	非腫瘍性所見 炎症	I、II
ASC-US	意義不明な 異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	II-IIIa
ASC-H	HSILを除外できない 異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	IIIa、IIIb
LSIL	軽度扁平 上皮内病変	HPV感染 軽度異形成	IIIa
HSIL	高度扁平上皮内病変	中等度異形成	IIIa
		高度異形成	IIIb
		上皮内癌	IV
SCC	扁平上皮癌	扁平上皮癌	V
AGC	異型腺細胞	腺異型または 腺癌疑い	III
AIS	上皮内腺癌	上皮内腺癌	IV
Adenoca.	腺癌	腺癌	V
other malign.	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍	V

別表1 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況(地域)

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19							
20～24	153	3	1				
25～29	160	4	1	1			
30～34	371	8	3			2	1
35～39	502	11	4			4	
40～44	831	15	10			5	1
45～49	965	12	10			4	3
50～54	863	4	3				
55～59	949	3	2			1	
60～64	1,246	2	1			1	
65～69	1,861	1	1	1			
70～74	2,415	2	1				
75～79	1,218	2	2				
80～	576						
計	12,110	67	39	2	0	17	5

別表2 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況(職域)

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19							
20～24	3						
25～29	17						
30～34	22						
35～39	27						
40～44	32						
45～49	57	1	1			1	
50～54	60						
55～59	72						
60～64	26						
65～69	4						
70～74	4						
75～79							
80～							
計	324	1	1	0	0	1	0

別表3 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況(合計)

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19	0	0	0	0	0	0	0
20～24	156	3	1	0	0	0	0
25～29	177	4	1	1	0	0	0
30～34	393	8	3	0	0	2	1
35～39	529	11	4	0	0	4	0
40～44	863	15	10	0	0	5	1
45～49	1,022	13	11	0	0	5	3
50～54	923	4	3	0	0	0	0
55～59	1,021	3	2	0	0	1	0
60～64	1,272	2	1	0	0	1	0
65～69	1,865	1	1	1	0	0	0
70～74	2,419	2	1	0	0	0	0
75～79	1,218	2	2	0	0	0	0
80～	576	0	0	0	0	0	0
計	12,434	68	40	2	0	18	5

(8) 乳がん検診

1) 検診概要

目的： 乳がんの早期発見

対象： 岡山県の指針で 30 歳代は視触診単独検診を毎年実施、40 歳以上はマンモグラフィ併用検診を毎年実施

原則、地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 11,026 人の検診を実施し、前年度に比べ 6,021 人 (35.3%) の減少であった。

職域では 329 人の検診を実施し、前年度に比べ 65 人 (16.5%) の減少であった。

全体では前年度に比べ 6,086 人 (34.9%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
地域	18,407	19,055	17,624	17,171	17,047	11,026
職域	1,174	907	703	479	394	329
計	19,581	19,962	18,327	17,650	17,441	11,355

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 423 人で、要精検率は 3.7% であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は 354 人で、精検受診率は 83.7% であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 33 人で、発見率は 0.29% であった。

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
がん発見者数	34	30	41	30	35	33
がん発見率	0.17 %	0.15 %	0.22 %	0.17 %	0.20 %	0.29 %

3) 検診方法

① 検診項目

- ・問診、視触診（専門医師による立位・座位・仰臥位・視触診法により行う）
- ・問診、視触診、マンモグラフィ（40歳代のみ、内外斜位一方向と頭尾方向を加えた2方向）

② 判定方法

視触診 : 専門医師による

マンモグラフィ : マンモグラフィ精度管理中央委員会の認定読影医師による二重読影

③ 判定区分

・視触診

異常なし : 今回の検診で異常は認められない者

経過観察 : 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検 : 今回の検診で精密検査の必要があると診断された者

・マンモ併用

異常なし : 今回の検診で異常は認められない者（有所見を含む）

要精検 : 疑わしい所見が見られるので精密検査が必要と診断された者

別表1 乳がん年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29										
30～34										
35～39										
40～44	930	50	38	12	1	1	8	6	10	
45～49	1,000	49	46	19	4	1	9	3	10	
50～54	917	42	33	13	3		5	2	10	
55～59	971	36	31	13	4		3	4	7	
60～64	1,266	40	38	17	3		4	6	8	
65～69	1,829	52	45	22	5	1	4	4	9	
70～74	2,297	78	59	27	5	1	10	1	15	
75～79	1,174	40	35	16	4	1	7	2	5	
80～	642	28	24	17	4			1	2	
不明										
計	11,026	415	349	156	33	5	50	29	76	0

別表2 乳がん年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	7									
30～34	9									
35～39	15									
40～44	29	1	1	1						
45～49	65	1	1						1	
50～54	62	2	1	1						
55～59	74	2	1	1						
60～64	25									
65～69	14	1								
70～74	23	1	1					1		
75～79	5									
80～	1									
不明										
計	329	8	5	3	0	0	0	1	1	0

別表3 乳がん年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30～34	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35～39	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	959	51	39	13	1	1	8	6	10	0
45～49	1,065	50	47	19	4	1	9	3	11	0
50～54	979	44	34	14	3	0	5	2	10	0
55～59	1,045	38	32	14	4	0	3	4	7	0
60～64	1,291	40	38	17	3	0	4	6	8	0
65～69	1,843	53	45	22	5	1	4	4	9	0
70～74	2,320	79	60	27	5	1	10	2	15	0
75～79	1,179	40	35	16	4	1	7	2	5	0
80～	643	28	24	17	4	0	0	1	2	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	11,355	423	354	159	33	5	50	30	77	0

(9) 大腸がん検診

1) 検診概要

目的：大腸がんの早期発見

対象：原則として40歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では12,292人の検診を実施し、前年度に比べ5,809人(32.1%)の減少であった。

職域では8,214人の検診を実施し、前年度に比べ710人(9.5%)の増加であった。

全体では前年度に比べ5,099人(19.9%)の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
地域	21,294	20,351	18,304	18,101	12,292
職域	6,566	6,783	7,385	7,504	8,214
計	27,860	27,134	25,689	25,605	20,506

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は1,390人で、要精検率は6.8%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は914人で、精検受診率は65.8%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は20人で、0.10%であった。

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
がん発見者数	33	23	27	34	20
がん発見率	0.12%	0.08%	0.11%	0.13%	0.10%

3) 検診方法

① 検診項目

問診、検査（免疫学的便ヘモグロビン検査、便採取は2日法）

② 判定区分

異常なし：免疫学的便潜血反応検査において2日とも陰性

要精検：免疫学的便潜血反応検査において1日あるいは2日とも陽性

別表1 大腸がん検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39												
	40～44	109	6	4	1				1		2		
	45～49	123	8	6	1				2		2	1	
	50～54	132	9	7	1				4		2		
	55～59	137	7	5	2				3				
	60～64	260	12	4	1				3				
	65～69	760	55	39	7			1	23	7		1	
	70～74	1,204	114	88	8	2			65	7	6		
	75～79	862	59	41	3			1	31	2	3	1	
	80～	862	98	64	3	4			42	7	8	1	
計	4,449	368	258	27	6	0	2	174	23	23	4	0	
女	～39												
	40～44	352	22	17	10				2	1	3	1	
	45～49	426	25	18	10				4		3	1	
	50～54	398	21	12	3				6	3			
	55～59	539	24	18	5				8	1	4		
	60～64	779	40	28	8	1			10	3	3	3	
	65～69	1,380	79	58	19	2		1	26	4	4	2	
	70～74	1,825	120	92	17	3			49	13	8	2	
	75～79	1,122	101	79	16	2		1	39	8	12	1	
	80～	1,022	91	57	9	2			32	8	3	3	
計	7,843	523	379	97	10	0	2	176	41	40	13	0	
合計		12,292	891	637	124	16	0	4	350	64	63	17	0

別表2 大腸がん検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	895	55	31	10	1		1	8	2	6	3	
	40～44	798	35	19	7				7	1	3	1	
	45～49	992	57	31	11				15	1	2	2	
	50～54	810	32	20	2				11		6	1	
	55～59	647	56	19	6				11	1	1		
	60～64	553	31	20	5	1			12	2			
	65～69	299	25	14	4		1		7	1	1		
	70～74	133	17	8	1				5	2			
	75～79	39	4	2	1				1				
	80～	16	2	1	1								
不明													
計	5,182	314	165	48	2	1	1	77	10	19	7	0	
女	～39	451	32	17	8				3		3	3	
	40～44	405	28	14	7				3		4		
	45～49	557	35	16	9				5		1	1	
	50～54	464	25	16	6				5		2	2	1
	55～59	404	18	11	5	1			5	1			
	60～64	406	23	20	5	1			7	4	3		
	65～69	200	12	10	4				5			1	
	70～74	104	8	5	2				2		1		
	75～79	27	3	3	1				1	1			
	80～	14	1										
不明													
計	3,032	185	112	47	2	0	0	36	6	14	7	1	
合計		8,214	499	277	95	4	1	1	113	16	33	14	1

別表3 大腸がん検診年齢階層別実施状況（合計）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	895	55	31	10	1	0	1	8	2	6	3	0
	40～44	907	41	23	8	0	0	0	8	1	5	1	0
	45～49	1,115	65	37	12	0	0	0	17	1	4	3	0
	50～54	942	41	27	3	0	0	0	15	0	8	1	0
	55～59	784	63	24	8	0	0	0	14	1	1	0	0
	60～64	813	43	24	6	1	0	0	15	2	0	0	0
	65～69	1,059	80	53	11	0	1	1	30	8	1	1	0
	70～74	1,337	131	96	9	2	0	0	70	9	6	0	0
	75～79	901	63	43	4	0	0	1	32	2	3	1	0
	80～	878	100	65	4	4	0	0	42	7	8	1	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	9,631	682	423	75	8	1	3	251	33	42	11	0	
女	～39	451	32	17	8	0	0	0	3	0	3	3	0
	40～44	757	50	31	17	0	0	0	5	1	7	1	0
	45～49	983	60	34	19	0	0	0	9	0	4	2	0
	50～54	862	46	28	9	0	0	0	11	3	2	2	1
	55～59	943	42	29	10	1	0	0	13	2	4	0	0
	60～64	1,185	63	48	13	2	0	0	17	7	6	3	0
	65～69	1,580	91	68	23	2	0	1	31	4	4	3	0
	70～74	1,929	128	97	19	3	0	0	51	13	9	2	0
	75～79	1,149	104	82	17	2	0	1	40	9	12	1	0
	80～	1,036	92	57	9	2	0	0	32	8	3	3	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	10,875	708	491	144	12	0	2	212	47	54	20	1	
合計		20,506	1,390	914	219	20	1	5	463	80	96	31	1

(10) 前立腺がん検診

1) 検診概要

目的： 前立腺がんの早期発見

対象： 原則として 40 歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 2,747 人の検診を実施し、前年度に比べ 2,293 人 (45.5%) の減少であった。
職域では 1,051 人の検診を実施し、前年度に比べ 412 人 (64.5%) の増加であった。
全体では前年度に比べ 1,881 人 (33.1%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

区分	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
地域	6,167	6,051	5,201	5,040	2,747
職域	377	475	716	639	1,051
計	6,544	6,526	5,917	5,679	3,798

(人)

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 195 人で、要精検率は 5.1% であった。

⑤ 検受診率

精検受診者数は 112 人で、精検受診率は 57.4% であった。

⑥ がん発見率

発見された人数は 16 人で、発見率は 0.42% であった。

区分	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
がん発見者数	29	25	25	17	16
がん発見率	0.44 %	0.38 %	0.42 %	0.30 %	0.42 %

3) 検診方法

- ① 検診項目：問診、前立腺特異抗原検査（CLEIA法）
- ② 判定区分：PSAの基準値を4.0ng/mlとし、4.0以下を異常なし、4.1以上を要精検と判定

別表1 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳							
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
～39	1										
40～44	36										
45～49	46										
50～54	86	3	2	1		1					
55～59	95	2									
60～64	201	6	6	1	1	1		3			
65～69	543	33	17	2	1	3		8	1		2
70～74	840	55	31	6	6	1		17	1		
75～79	526	42	37	5	5	3		21	2		1
80～	373	29	19	1	3	4		8	1	1	1
計	2,747	170	112	16	16	13	0	57	5	1	4

別表2 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳							
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
～39	103										
40～44	120	1									
45～49	153	1									
50～54	215	4									
55～59	188	4									
60～64	155	5									
65～69	78	5									
70～74	29	4									
75～79	7	1									
80～	3										
計	1,051	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0

別表3 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳							
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
～39	104	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	156	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	199	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54	301	7	2	1	0	1	0	0	0	0	0
55～59	283	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64	356	11	6	1	1	1	0	3	0	0	0
65～69	621	38	17	2	1	3	0	8	1	0	2
70～74	869	59	31	6	6	1	0	17	1	0	0
75～79	533	43	37	5	5	3	0	21	2	0	1
80～	376	29	19	1	3	4	0	8	1	1	1
計	3,798	195	112	16	16	13	0	57	5	1	4

(1 1) 骨粗鬆症検診

1) 検診概要

目的： 骨粗鬆症の予防

対象： 地域住民、事業所就業者、学生

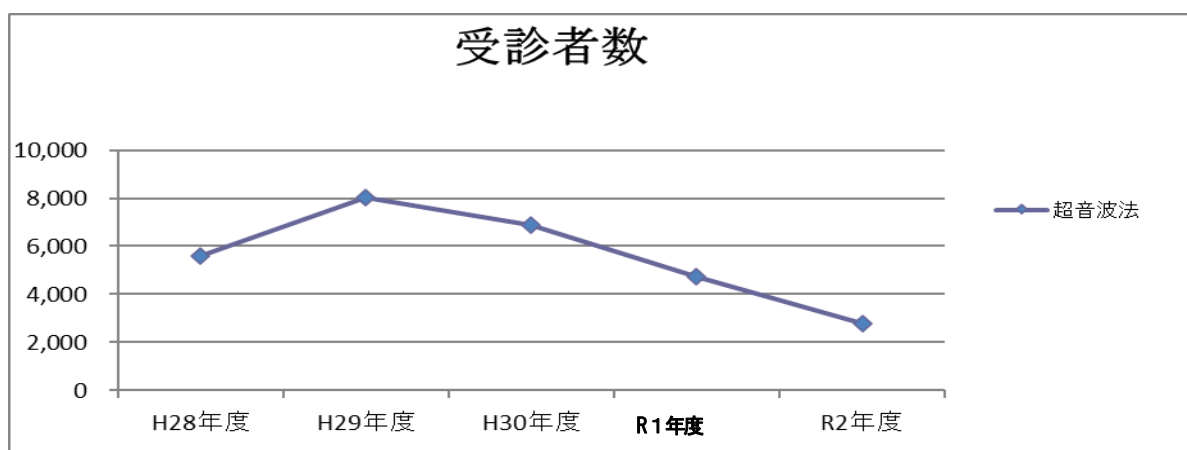
2) 実施状況

2,794 人の検診を実施し、前年度に比べ1,947 人（41.1%）の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
超音波法	5,613	8,012	6,871	4,741	2,794



3) 検診方法

① 検診項目

- ・問診
- ・超音波法 : 足のかかると超音波をあてて、音響的骨評価値により骨密度を測定

② 判定方法

性別、年齢別に下記判定基準値（YAM 値）と照合し医師による最終判定を行う

4) 判定基準値 (成人)

性別	年齢	YAM値に対する割合		
		① 異常なし	② 要指導	③ 要精検
女性	59歳以下	90%以上	90%未満 80%以上	80%未満
	60歳以上	90%以上	90%未満 70%以上	70%未満
男性	全年齢	90%以上	90%未満 75%以上	75%未満

(1 2) 学校保健検査

1. 尿検査

1) 検査概要

目的：腎臓病・糖尿病等早期発見

対象：学校保健安全法に基づく幼児・児童・生徒等

2) 実施状況

138,187人の検査を実施し、前年度に比べ5,497人(3.8%)の減少であった。

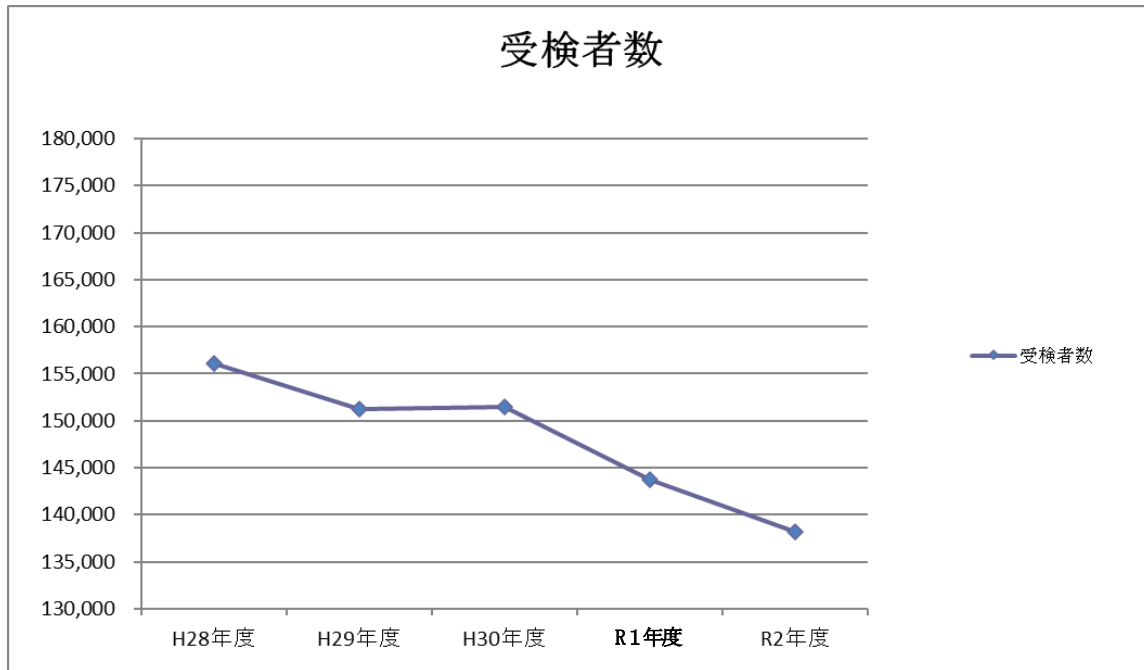
第1回検尿の陽性者は5,776人で、陽性率は4.18%であった。

第2回検尿の陽性者は1,185人で、陽性率は24.07%であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
受検者数	156,092	151,195	151,458	143,684	138,187



② 検査実績

対象	性別	第1回検尿						第2回検尿					
		受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数			受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数		
					糖	蛋白	潜血				糖	蛋白	潜血
幼稚園 保育園	男	6,648	58	0.87	4	41	14	31	7	22.58	1	4	4
	女	6,129	90	1.47	7	56	29	55	13	23.64	0	7	8
	計	12,777	148	1.16	11	97	43	86	20	23.26	1	11	12
小学校	男	37,499	491	1.31	34	372	94	438	106	24.20	4	90	36
	女	36,064	1,226	3.40	46	824	411	1,086	268	24.68	7	214	108
	計	73,563	1,717	2.33	80	1,196	505	1,524	374	24.54	11	304	144
中学校	男	18,870	1,386	7.34	60	1,260	99	1,269	333	26.24	14	300	43
	女	17,292	1,510	8.73	35	861	724	1,293	279	21.58	7	240	86
	計	36,162	2,896	8.01	95	2,121	823	2,562	612	23.89	21	540	129
高等学校	男	6,361	422	6.63	26	385	21	348	85	24.43	1	82	8
	女	6,744	418	6.20	19	252	182	323	75	23.22	3	67	25
	計	13,105	840	6.41	45	637	203	671	160	23.85	4	149	33
その他の 学校	男	526	28	5.32	5	20	3	4	0	0.00	0	0	0
	女	1,005	55	5.47	1	40	17	7	0	0.00	0	0	0
	計	1,531	83	5.42	6	60	20	11	0	0.00	0	0	0
特殊学校	男	687	57	8.30	9	45	10	46	11	23.91	1	9	2
	女	362	35	9.67	0	29	10	23	8	34.78	0	8	2
	計	1,049	92	8.77	9	74	20	69	19	27.54	1	17	4
合計	男	70,591	2,442	3.46	138	2,123	241	2,136	542	25.37	21	485	93
	女	67,596	3,334	4.93	108	2,062	1,373	2,787	643	23.07	17	536	229
	計	138,187	5,776	4.18	246	4,185	1,614	4,923	1,185	24.07	38	1,021	322

3) 検査方法

第1回検尿：蛋白、潜血、糖を、尿自動分析装置（US3300）を用いて定性検査を実施する。
 蛋白（±）以上の尿に対しては、スルホサリチル酸法で確認する。
 第2回検尿：第1回検尿の陽性者に対し第1回検尿と同様の検査項目・検査方法を行う。
 蛋白・潜血陽性者に対しては沈渣鏡検を行う。

2. 寄生虫検査

1) 検査概要

目的： 学校保健安全法に基づく寄生虫の保卵者の発見

対象： 幼児、児童、生徒等

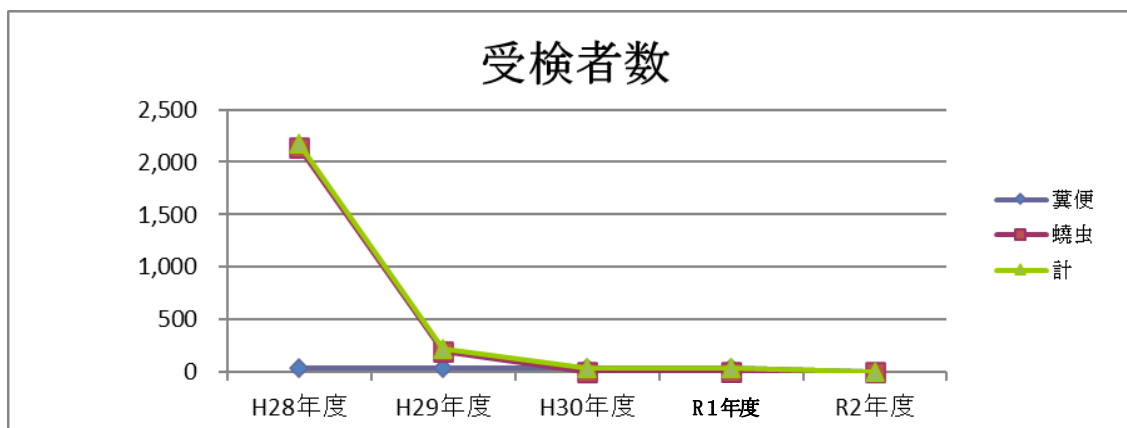
2) 実施状況

糞便検査は学校保健安全法の改正が施行され、寄生虫検査が必須項目から外れた影響のため、実施数は0人であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
糞便	33	33	33	34	0
蟯虫	2,142	191	0	0	0
計	2,175	224	33	34	0



② 検査実績

区分	糞便			蟯虫		
	検査者数	保卵者数	陽性率(%)	検査者数	保卵者数	陽性率(%)
保育園 幼児クラブ	0	0	0.00	0	0	0.00
幼稚園	0	0	0.00	0	0	0.00
小学校	0	0	0.00	0	0	0.00
特殊学校	0	0	0.00	0	0	0.00
計	0	0	0.00	0	0	0.00

3) 検査方法

- ・セロファンテープ肛囲検査法（2回法）： 蟯虫卵検査方法はセロテープ法を用いた採卵を行う。
夜間に肛門周囲に産卵された蟯虫卵を早朝セロテープの粘着部に付着させ、これを2日間（2回）行い、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。
- ・セロファン厚層塗抹法： 便をマッチの頭程度スライドに乗せ、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。

3. 貧血検査

1) 検査概要

目的： 貧血をはじめとする血液学的疾病の早期発見

対象： 児童、生徒等

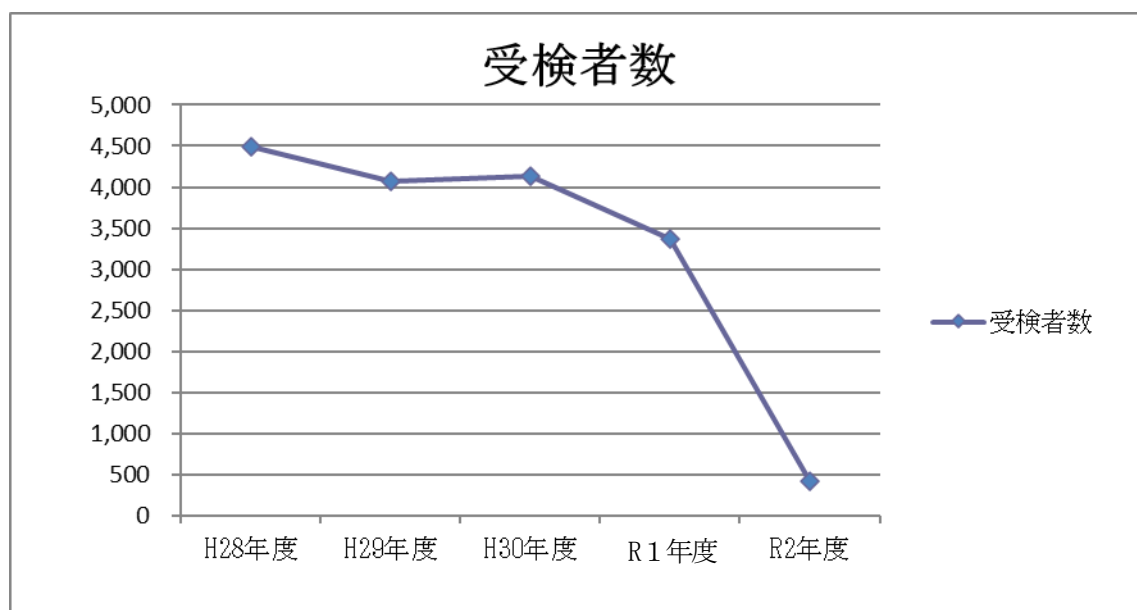
2) 実施状況

429 人の検査を実施し、前年度に比べ 2,941 人（87.3%）の減少であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
受検者数	4,494	4,065	4,131	3,370	429



② 検査実績

区分	性別	RBC (赤血球数)		Hb (ヘモグロビン)		Ht (ヘマトクリット)	
		受診数	基準外	受診数	基準外	受診数	基準外
中学校	男	8	1	8	2	8	1
	女	80	13	80	14	80	16
高校	男	93	20	93	15	93	8
	女	248	42	248	54	248	54
計		429	76	429	85	429	79

3) 検査方法

静脈より採血し、全自動血球計数装置 (XE2100) でRBC (赤血球数)、Hb (ヘモグロビン)、Ht (ヘマトクリット) の値を測定する。

4. 心臓検診

1) 検診概要

目的： 心疾患児の発見とともに重症度を判定し、突然死等の発生の予防

対象： 学校保健安全法に基づく、小学校1年生、小学校4年生、中学校1年生、高等学校1年生及びその他の学年

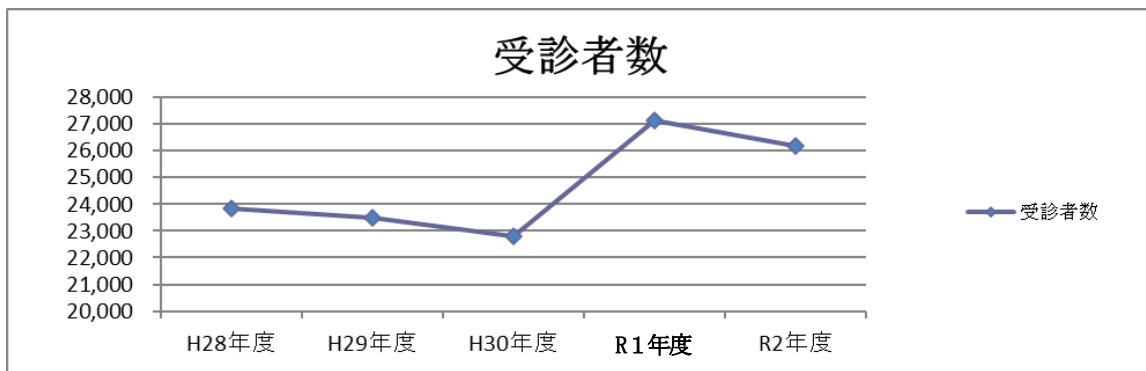
2) 実施状況

26,181人の検診を実施し、前年度に比べ971人(3.6%)の減少であった。
 有所見率は3.64%であった(医師会審査判読分は除く)。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
受診者数	23,829	23,513	22,786	27,152	26,181



③ 検診実績

区分	受診者数	判 定		
		正常	有所見	有所見率
小学校	8,210	7,962	248	3.02
中学校	8,481	8,071	410	4.83
高校、大学	5,266	5,139	127	2.41
特殊学校	199	177	22	11.06
計	22,156	21,349	807	3.64

※ 医師会審査判読分（4,195人）を除く

3) 検診方法

心臓検診票と省略4誘導心電図+2点心音図を実施。一部の学校では標準12誘導心電図を実施。

県医師会解析センターで自動解析（一次判読）後、一次有所見者と検診票有点者をふるい分けし、市医師会心臓判定委員会、財団専門医師等で二次判読を実施し最終判定を行う。

5. 小児生活習慣病予防健診

1) 健診概要

目的：生活習慣病及び生活習慣病予備軍の発見

対象：小学校4年生と中学校1年生の生徒（1市のみ実施）

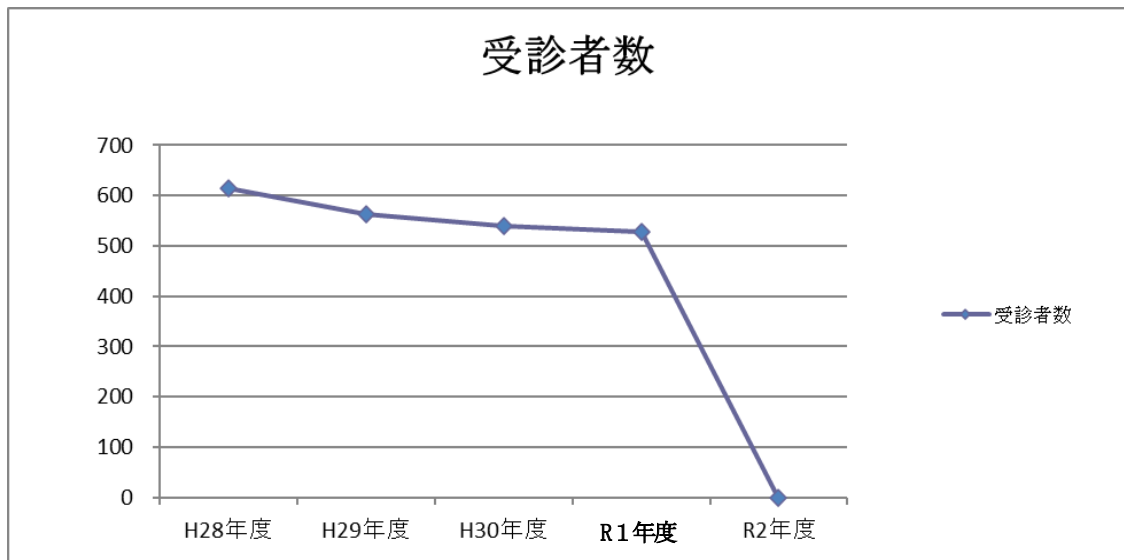
2) 実施状況：

令和2年度より事業が中止となった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
受診者数	614	562	540	528	0



② 健診実績

区分		受診者数	管理区分										
			要医学的管理 (I)		要経過観察 (II)		要指導 (III)		管理不要 (IV)		正常 (N)		
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
小学校	4年生	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校	1年生	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3) 健診方法

① 健診項目

小児生活習慣病予防健診調査票 (家族歴、糖尿病の有無)、身体計測 (肥満度の計算)、血中脂質検査、血圧測定

② 判定区分

健診各項目を小児生活習慣病基準値からの乖離度合で判定し、同時にその判定の組合せで5段階の総合判定を行う。

総合判定には専門医師が関与するとともに総合判定のランクに対応して指導（管理）区分を決定する。

管理区分	内容
I	要医学的管理
II	要経過観察
III	要指導
IV	管理不要
N	正常

(13) 先天性代謝異常等検査

1) 検査概要

目的：先天性代謝異常症等の早期発見

対象：新生児（原則として保護者の検査希望）

2) 実施状況

平成 11 年度より岡山県からの委託事業として実施しているが、平成 18 年度より高知県、平成 20 年度より鳥取県から委託を受け、平成 21 年度より政令指定都市への移行に伴い、岡山市から委託を受けている。

また平成 24 年度からタンデムマス検査が導入され対象疾患は従来の 6 疾患から 19 疾患に拡大し、一時的ではあるが埼玉県、愛媛県からの委託を受けた。

平成 25 年度からは島根県より 3 項目の委託を受けた。

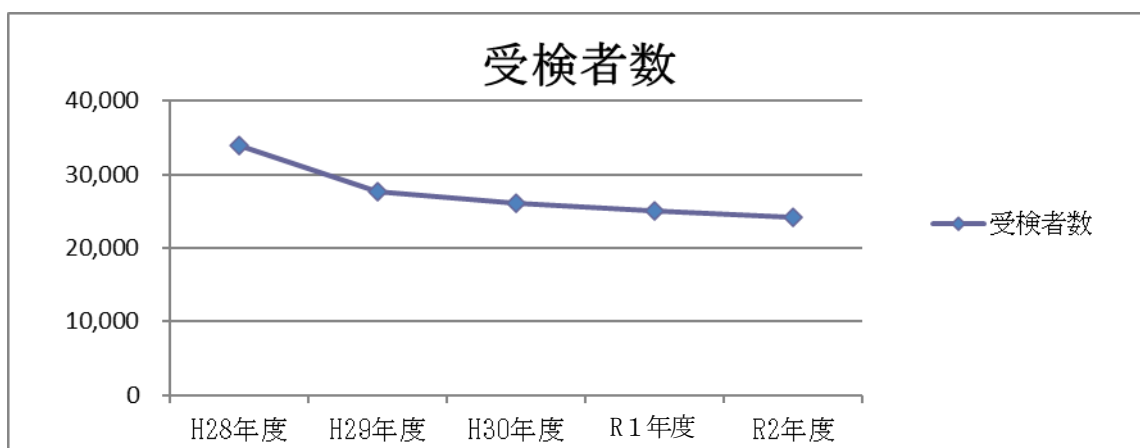
24,091 人（初回検体数:24,091 人、再採血による再検査数:553 人）の検査を実施し、前年度に比べ 1,015 人（4.04%）の減少であった。

確定患児は 26 人（0.10%）であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
受検者数	33,996	27,652	26,131	25,106	24,091



② 検査実績

対象疾患	検査総数	要再検査	要精検	患児件数
先天性甲状腺機能低下症	24,091	367 (1.52%)	48 (0.20%)	22 (0.09%)
先天性副腎過形成症		167 (0.69%)	17 (0.07%)	4 (0.02%)
ガラクトース血症		56 (0.23%)	5 (0.02%)	0 (0.00%)
アミノ酸代謝異常症	23,867	5 (0.02%)	5 (0.02%)	0 (0.00%)
有機酸代謝異常症		20 (0.08%)	5 (0.02%)	0 (0.00%)
脂肪酸代謝異常症		3 (0.01%)	4 (0.02%)	0 (0.00%)
低出生体重児と検体不備の2回採血		553 (2.30%)		

3) 検査方法

出生から4～6日目に、新生児の踵から4スポットの血液をろ紙に採血する。

よく乾燥されたものを検体とする。

ガラクトース血症はマイクロプレート酵素法及びボイトラー法で検査。

先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎過形成症はELISA法で検査。

アミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症はタンデムマス法で検査する。

2 環 境 部

(1) 飲料水検査

1) 検査概要

目的・・・水道事業、食品製造、飲用井戸、建築物等における安全な飲み水の確認
 対象・・・自治体、事業所、ビル管理業者、貯水槽清掃業者及び個人

2) 実施状況

9,858 件検査を受託し、前年度と比較し 112 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
9,861	9,897	10,315	9,970	9,858

② 令和 2 年度の検査実績

(件)

業務分類	検査種別	件数
水道事業	基準項目	577
	省略不可項目	640
	簡易項目	2,067
	水質管理目標設定項目	163
	農薬類	806
	クリプトスポリジウム	682
	クリプトスポリジウム汚染指標菌	1,581
	簡易項目（学校関連）	278
ビル管理関係	16 項目	208
	11 項目	149
	消毒副生項目	182
食品衛生関連	食品製造用水	138
飲用井戸水等	化学・細菌検査	3,450

3) 検査方法

厚生労働省告示第 261 号、上水試験方法、食品衛生法等による試験法で各検査項目を測定する。

4) 登録検査機関

水道法に基づき指定検査機関として認可されていたが、同法の改正により平成16年2月27日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

また、建築物衛生法に基づく水質検査は昭和47年より岡山県知事登録検査機関となっている。

(2) 簡易専用水道検査

1) 検査概要

目的・・・建築物等における安全な飲み水の確保

対象・・・自治体、事業所、マンション管理業者等

2) 実施状況

2,217件を受託し、前年度と比較し13件減少した。

① 受託検査数の年度別推移

(件)

H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
2,027	2,175	2,206	2,230	2,217

② 令和2年度の検査実績

(件)

簡易専用水道		小規模 貯水槽水道他	総件数
現場検査	書類検査		
1,791	257	169	2,217

③ 令和2年度の不適合率

簡易専用水道	小規模 貯水槽水道	全体
28.3%	22.5%	27.8%

※不適合率とは「良好」以外と判定された施設の割合

④ 簡易専用水道の不適合率の年度別推移

H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
30.9%	31.3%	28.9%	27.7%	28.3%

3) 検査方法

水道法、水道法施行規則、厚生労働省告示並びに岡山県、岡山市及び倉敷市簡易専用水道の取扱に係る指導指針

4) 登録検査機関

水道法第 34 条第 2 項に基づく指定検査機関として昭和 54 年 10 月から検査を行っているが、同法の改正により平成 16 年 3 月 31 日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

(3) 浄化槽法定検査

1) 検査概要

目的・・・事業所・店舗や家庭等の浄化槽放流水に係る公共用水域の水質の保全
対象・・・自治体、浄化槽設置者又は管理者

2) 実施状況

7 条検査 758 件、11 条検査 50,204 件を合わせて 50,962 件の検査を受託し、前年度と比較し 347 件増加した。

① 法定検査数の年次推移

(件)

H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
50,516	50,413	50,640	50,615	50,962

② 7 条検査数の年次推移

(件)

H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
904	852	870	789	758

③ 11 条検査数の年次推移

(件)

H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
49,612	49,561	49,770	49,826	50,204

④ 令和 2 年度の検査判定内訳

(件)

判 定	7 条検査	11 条検査		
			みなし 浄化槽	合併処理 浄化槽
適 正	573	31,768	8,258	23,510
概ね適正	175	17,624	4,004	13,620
不適正	10	812	493	319
総件数	758	50,204	12,755	37,449

3) 検査方法

浄化槽法、浄化槽法施行規則、環境省告示並びに岡山県及び岡山市要綱

4) 検査システム

○ 7 条検査 (設置後検査)

浄化槽設置者 (又は施工業者) は、浄化槽設置前に設置票、浄化槽維持管理及び水質検査契約書、7 条検査依頼書に検査料金を添えて岡山県浄化槽施工協同組合の窓口提出する。提出された書類、検査料金は後日検査機関に送付され、使用開始 (保守点検業務開始) 報告により 7 条検査の実施計画を立てる。

検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず 1 件について 8,000 円 (非課税) と定めている。

○ 11 条検査 (年 1 回定期検査)

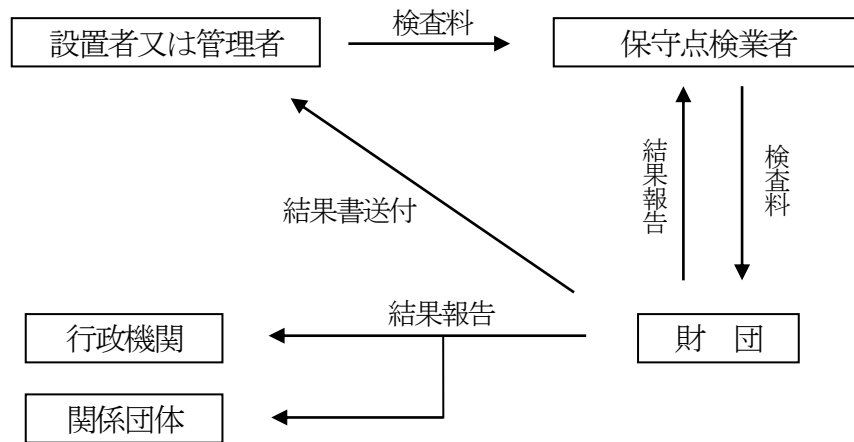
浄化槽設置者 (管理者) は、保守点検業者、清掃業者及び指定検査機関と一括契約方式により委託契約を結び、検査料金は原則保守点検業者の協力により保守点検料金に含めて徴収され、法定検査実施後に検査機関に支払われる。

検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず 1 件について 5,700 円 (非課税) と定めている。

○ 検査について

検査は、外観検査、水質検査、書類検査について行い、設置者 (管理者) に検査結果書を送付する。

検査結果で「不適正」と判定された浄化槽及び未保守浄化槽については、関係行政機関、関係団体に報告し改善指導を要請している。
また、保守点検業者及び施工業者にも改善策を講ずるべく不適正の内容を報告している。



5) 指定検査機関

昭和61年4月に浄化槽法第57条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を行っている。

(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査

1) 検査概要

目的・・・事業所、店舗、家庭等の浄化槽の規模に応じた放流水の水質状況確認及び浄化機能検査

対象・・・浄化槽設置者又は管理者

2) 実施状況

5,988件検査を受託し、前年度より189件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
6,354	6,411	6,282	6,177	5,988

② 検査実績

(件)

R2 年度	機能検査	放流水検査
総検査受付数	590	5,398

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	5,807
BOD	5,308
COD	3,343
SS	3,062
ノルマルヘキサン抽出物質	554
全窒素	2,684
全りん	2,697
塩化物イオン	4,254
透視度	4,254
大腸菌群数	2,035
外観	5,702
臭気	4,166

3) 検査方法

衛浄第34号、JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 指定検査機関

昭和61年4月に浄化槽法第57条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を行っている。

(5) 産業排水検査

1) 検査概要

目的・・・事業所等による排水の汚染状況確認
対象・・・自治体、事業所、ホテル、老健施設等

2) 実施状況

2,719 件検査を受託し、前年度より 171 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
2,634	2,516	2,604	2,890	2,719

② 検査実績

(件)

R2 年度	理化学検査	微生物検査
総検査項目数	14,716	814

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	1,555
BOD	1,632
COD	1,845
SS	1,462
MLSS	53
ノルマルヘキサン抽出物質	1,393
全窒素	1,586
全りん	1,601
塩素イオン	221
カドミウム	155
鉛	181
六価クロム	137
シアン化合物	114
有機リン	78
ヒ素	157
総水銀	143
アルキル水銀	75
PCB	77
六価クロム溶出試験	190
大腸菌群数	814

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で測定する。

4) 登録検査機関

計量法第 107 条の規定による岡山県知事登録の計量証明事業所

(6) 河川水検査

1) 検査概要

目的・・・河川、海域、湖沼等における自然環境の保全と安全な生活環境の確保
対象・・・自治体、事業所等

2) 実施状況

879 件検査を受託し、前年度より 181 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
1,152	1,041	1,064	1,060	879

② 検査実績

(件)

R2 年度	理化学検査	微生物検査
総検査項目数	11,366	1,368

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	1,896
BOD	1,275
COD	1,295
DO	1,881
SS	1,502
ノルマルヘキサン抽出物質	249
全窒素	961
全りん	853
塩素イオン	290
カドミウム	91
鉛	107
六価クロム	93
シアン化合物	85
ヒ素	205
総水銀	90
アルキル水銀	71
PCB	80
農薬（ゴルフ場等）	342
大腸菌群数	1,116
大腸菌数	252

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で測定する。

4) 登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第107条の計量証明事業所

(7) 食品検査

1) 検査概要

目的・・・安心・安全な食品の確保、飲食物に起因する衛生上の危害防止

対象・・・自治体、食品製造業者、食品販売店及び給食事業所等

2) 実施状況

行政検査については5,504件検査を受託し、前年度と比較し1,768件減少した。輸入食品自主検査については、25件を受託し、前年度と比較し1件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
衛生検査	6,643	7,800	8,168	7,272	5,504
輸入食品 自主検査等	32	26	33	24	25

② 検査実績

(件)

R2年度	理化学的検査項目	細菌学的検査項目
検査項目数	2,387	10,551

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	衛生検査	輸入食品自主検査等
栄養成分等検査	1,531	12
添加物等検査	229	20
重金属類の検査	528	
農薬等検査	87	
器具容器包装の検査	105	3
異物検査	162	
清涼飲料水・ミネラルウォーター	46	
細菌数	2,607	
大腸菌群	1,894	
サルモネラ	497	
黄色ブドウ球菌	1,338	
腸炎ビブリオ	290	
腸管出血性大腸菌	152	
発育しうる微生物	10	7
ノロウイルス	477	

3) 検査方法

食品衛生法等に基づく公定法又は公定法に準拠した方法により、国の認可を受けた「検査実施標準作業書」等に基づき行う。

4) 登録検査機関

食品衛生法に基づき昭和63年3月10日付けで認可されていた「指定検査機関」が同法の改正により平成16年2月27日から厚生労働大臣が認可する「登録検査機関」に移行し、平成21年2月27日付けで厚生労働大臣から登録の更新を受けている。また、平成21年6月に食品衛生法第26条3項の追加登録を受け、輸入食品等命令検査の受託を開始している。

(8) 腸内細菌検査等

1) 検査概要

目的・・・腸内細菌に起因する衛生上の危害防止
対象・・・食品製造業者、給食事業所等

2) 実施状況

11,439件検査を受託し、前年度より469件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
7,934	7,985	10,123	11,908	11,439

② 主な項目の検査数

(件)

	検査項目	件数
腸内細菌	赤痢・腸チフス・パラチフス	8,649
	サルモネラ	11,347
	腸炎ビブリオ	119
	腸管出血性大腸菌 (O157、O26を含む)	8,533
砂場の砂	犬猫回虫卵	92
	砂場の細菌 (E. coli)	53

(9) その他の検査

1) 検査概要

目的・・・プール、温泉等の衛生管理の保全とレジオネラ症の発症防止
対象・・・学校、温泉施設等

2) 実施状況

1,641 件検査を受託し、前年度より 837 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
2,217	2,227	2,326	2,478	1,641

② 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
プール水検査 (化学・細菌)	167
プール水検査 (トリハロメタン)	48
温泉検査	14
室内の化学物質検査	5
浴槽水検査	361
レジオネラ属菌検査	979

3) 検査方法

「遊泳用プールの検査基準について」及び「学校環境衛生の基準」に示された内容に沿って、定められた項目及び検査方法で検査を実施する。

温泉法、温泉法施行規則、鉱泉分析法指針に則り実施する。

室内空气中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について実施する。

4) 登録検査機関

温泉法第 19 条の規定による岡山県知事登録温泉分析機関

3 精度管理室

1) 環境部における ISO9001 の運用状況

環境部河川水・排水検査部門は、顧客サービスの向上と品質マネジメントシステムの強化を目指す目的から、平成 14 年 10 月に（一財）日本品質保証機構（JQA）から ISO9001 の認証を取得した。

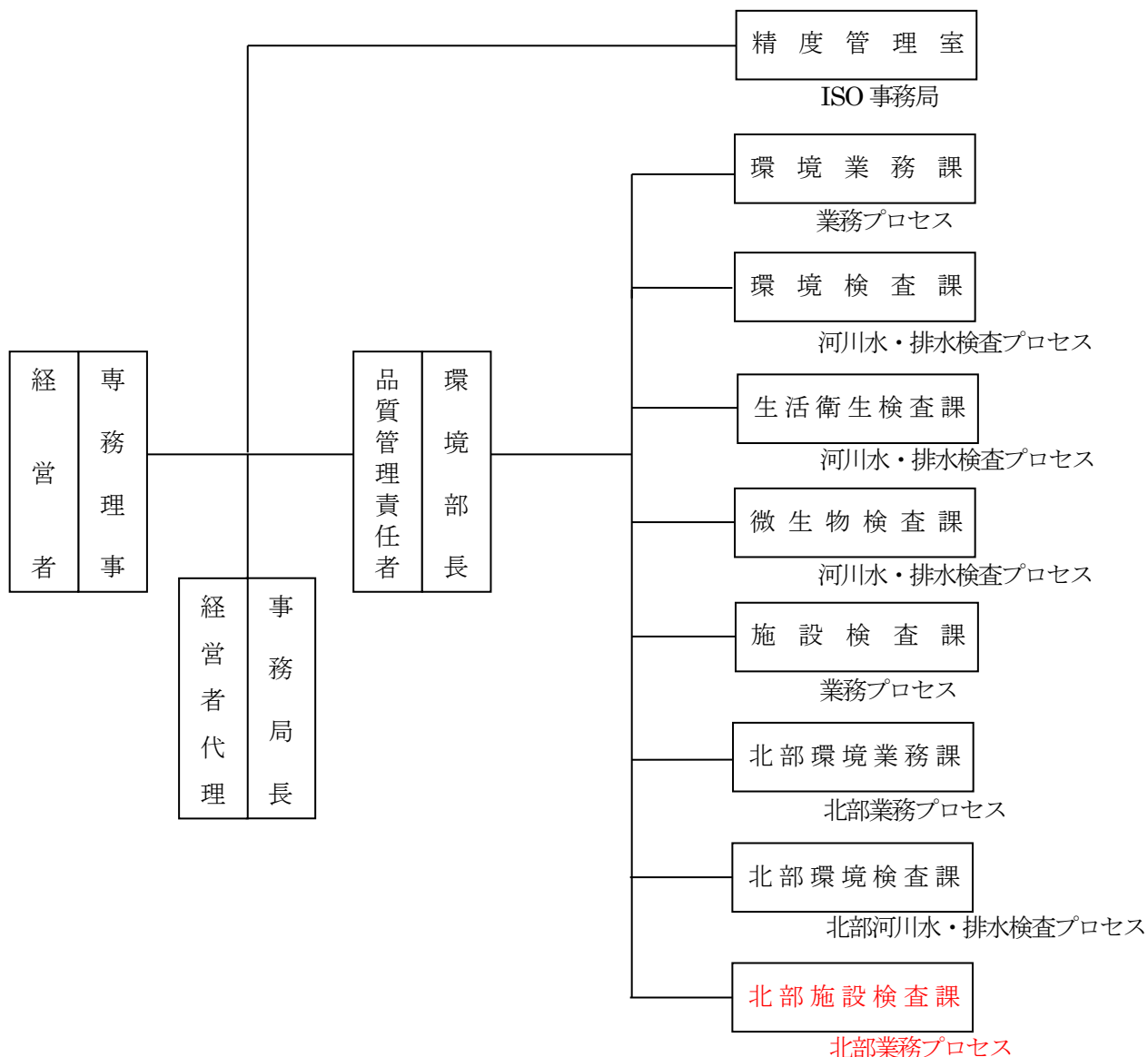
年 1 回の定期審査、3 年毎の更新審査を受け、認証を維持しており、平成 29 年 10 月に ISO9001:2015 へ移行した。

なお、計画的に年 2 回の内部監査を実施し、年度末には経営者によるマネジメントレビューで品質マネジメントシステムの有効性評価を行い、継続的改善に繋げている。

2) ISO 対象組織と責任体制

経営者に専務理事、その代理者を事務局長とし、品質管理責任者（環境部長）を中心に品質管理体制の強化及び品質管理の継続的改善に努めているが、精度管理室はその事務局の役割を担っている。

令和 2 年度の ISO9001 対象部門の体制



3) 水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部飲料水検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 20 条第 3 項に基づく厚生労働大臣登録水質検査機関として登録を受け、平成 21 年 1 月に水質検査機関による水道水水質検査結果の信頼性確保を目的とした（公社）日本水道協会の水道水質検査優良試験所規範（水道 GLP）の認定を取得している。

精度管理室では、検査部門から独立した信頼性確保部門として、水道 GLP 品質管理マニュアルに従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査、内部監査やマネジメントレビューを行うなど検査精度の維持向上に努めている。更に、定期的な点検で、業務が適正に行われているか監視している。

また、毎年厚生労働省が行っている水道水質検査の統一精度管理調査においては、連続して良好な評価を受けている。

4) 簡易専用水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部簡易専用水道検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 34 条の 2 第 2 項に基づく厚生労働大臣登録簡易専用水道検査機関として登録を受けており、検査結果の信頼性を確保するためのシステムとして GLP 体制を整備している。

精度管理室では、その信頼性確保部門として、簡易専用水道業務規定に従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査、内部監査やマネジメントレビューを行うなど、検査精度の維持向上に努めている。

5) 食品 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部食品検査（理化学的検査区分及び細菌学的検査区分）は、平成 16 年 2 月より食品衛生法第 4 条第 9 項に基づく厚生労働大臣登録食品検査機関として登録を受け、試験検査結果の信頼性を確保するシステムとして GLP 体制を整備している。

精度管理室では、検査部門から独立した信頼性確保部門として、登録検査機関業務規程に従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査やマネジメントレビューを行うなど、検査精度の維持向上に努めている。更に定期的な内部点検で、業務が適正に行われているか監視している。

また、毎年中国四国厚生局による立入検査がおこなわれ、登録検査機関の業務管理等について監査を受けている。

6) HACCP（危害分析重要管理点）導入支援の取り組み状況

食品衛生法改正（平成 30 年 6 月）により、全ての食品等事業者を対象に HACCP による衛生管理が制度化されることとなり、国による食品の安全性のさらなる向上が推し進められている。当財団では、外部講師による研修会の開催や研修参加による資質向上を通じ、精度管理手法を活かした事

業者等の支援を行うなど技術や知識の情報提供等に努めている。

7) 財団の提供するサービスの信頼性の確保・向上を目指し、顧客満足度の向上を図るため、財団全般への ISO9001 の考え方を踏まえた業務改善等の浸透を進めている。

外部講師による研修会等を通じて考え方の浸透やエッセンスの取り入れ等に向けて、情報提供に努めている。

外部機関等による審査

規格	審査機関	月日	備考
ISO9001:2015	(一財)日本品質保証機構	9月24～25日	定期審査 (リモート審査)
厚生労働大臣登録食品検査機関	中国四国厚生局	7月28日	立入検査

外部講師による研修会

講師	内容	月日	出席者
(一財)日本品質保証機構 企画センター 特別参与 仲矢 新 氏	顧客満足度の向上 について	2月18～ 19日	※141名 (リモート研修会)

※欠席者へ資料・要旨等回覧

3 食鳥検査事業

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、岡山県知事の指定検査機関として、県内の大規模食鳥処理場5施設に、14名の検査員（獣医師）を派遣し、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）をはじめ各種鶏病等の検査の実施により、検査不合格の食鳥の廃棄措置等を通じ安全な鶏肉流通の確保に努めた。

(単位：千羽)

区分 \ 年度	令和1年度	令和2年度	増減 (%)
食鳥検査羽数	18,015	19,004	105.5

1) 検査概要

目的・・・食鳥肉等に起因する衛生上の危害の発生を防止し、県民の健康の保護を図ることを目的とする。

対象・・・県内の大規模食鳥処理場（年間30万羽を超えて処理する施設）5施設。
（内訳：ブロイラー処理2施設、成鶏処理3施設）

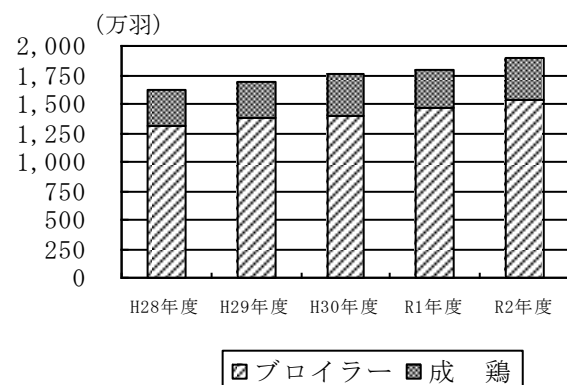
2) 実施状況

19,004,258羽の検査を実施した。

内訳はブロイラー15,310,100羽（前年度比104.1%）、成鶏3,694,158羽（前年度比111.6%）であった。

① 検査羽数の推移

年度	ブロイラー	成鶏	合計
H28年度	13,038,166	3,144,599	16,182,765
H29年度	13,739,362	3,170,583	16,909,945
H30年度	14,031,134	3,540,886	17,572,020
R1年度	14,704,192	3,310,556	18,014,748
R2年度	15,310,100	3,694,158	19,004,258



② 検査成績

(令和2年度)

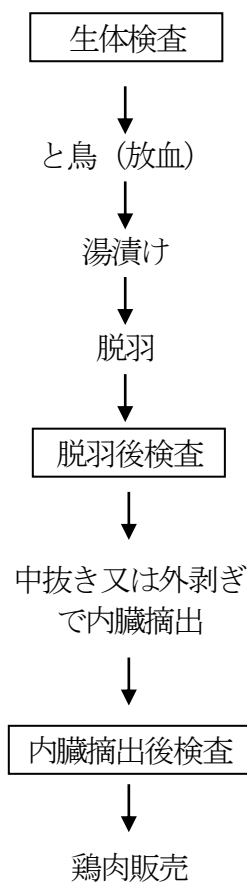
検査項目		廃棄区分			
		禁 止	全部廃棄	一部廃棄	
疾病別羽数	ウイルス・クラミジア類	高病原性鳥インフルエンザ			
		鳥インフルエンザ			
		鶏痘			
		鶏伝染性気管支炎			
		鶏伝染性喉頭気管炎			
		伝染性ファブリキウス嚢病			
		ニューカッスル病			
		鶏白血病			
		封入体肝炎			
		マレック病			
	その他				
	細菌症	鳥マイコプラズマ症			
		大腸菌症	456	53,734	
		伝染性コリーザ			
		サルモネラ症			
		鳥結核			
		ブドウ球菌症	1	458	
	その他		139		
	その他疾病	毒血症			
		膿毒症			
		敗血症	9	244	
		豚丹毒菌病			
		ロイコチトゾーン症			
		真菌症			
		原虫症（トキソ除）			
		寄生虫病			
		変性	663	8,681	7,213
		尿酸塩沈着症			
		水腫		14	1,344
		腹水症	12,447	33,343	
		出血	8	5,589	37,064
		炎症	731	9,759	416,200
		萎縮			
		腫瘍		1,925	1,731
		臓器の異常・色形臭等		1	
		異常体温			
黄疸			33		
外傷		4	845	14,159	
中毒諸症					
削瘦・発育不良	28,688	17,305			
放血不良	2,016	1,919			
湯漬過度		562			
その他	143	21,169			
合 計		45,166	155,720	477,711	
		678,597			

3) 検査方法

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、検査員（獣医師）が各処理場の食鳥処理衛生管理者と連携して検査を実施する。

4) 検査システム

鶏病の種類・程度等により「と鳥または解体禁止」、「全部廃棄」、「一部廃棄」に分類して廃棄措置をする。



5) 法律上の位置づけ

岡山県知事の指定検査機関であり、岡山県知事から食鳥検査委任を受けている。

5 附属病院

医療の提供

診療科は内科、呼吸器科、胃腸科、循環器科、放射線科、リハビリテーション科で、病床数126床で運営している。

呼吸器疾患の専門性を活かし肺結核、慢性呼吸不全、気管支喘息、肺がんなどの治療に取り組むとともに、気管支鏡検査をはじめとした確定診断や治療法の選択を行い、他の医療機関からの患者紹介に対応している。

また、財団内の人間ドック部門・健康診断部門・健康増進部門との連携により、脳卒中、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病の早期発見、早期治療に努めるとともに、禁煙指導にも重点を置いており、ニコチン依存から逃れるための禁煙外来や啓発のための講師派遣も行っている。

(1) 外来状況

1) 概要

内科全般を広く診療し、特に呼吸器疾患に対する専門医の適切な診断・治療に取り組んでいる。

なお、健康診断事業を併設施設へ移行したため、健診受診者は減少となった。

診療時間：平 日 9：00～12：00 13：30～17：00
土曜日 9：00～12：00（健康診断は行っていない）

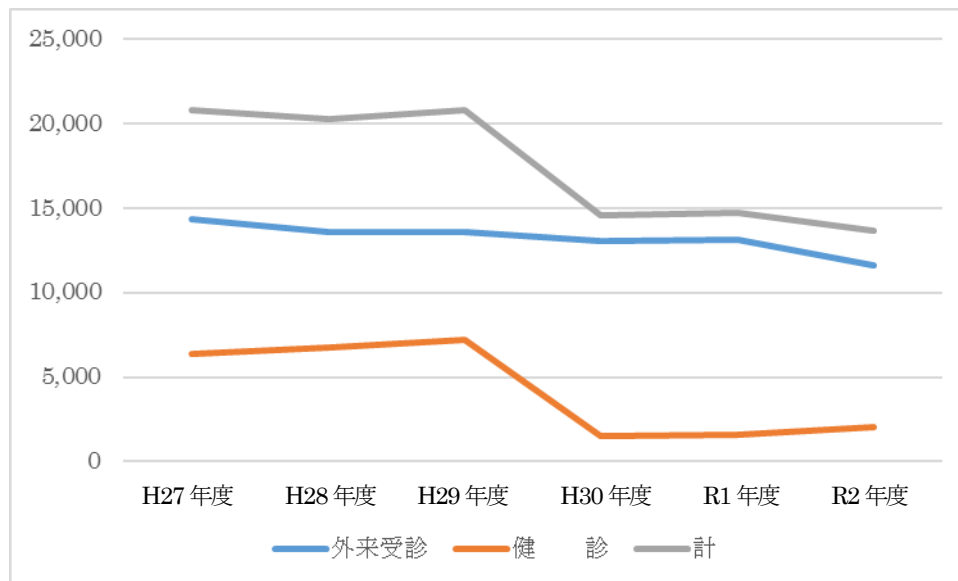
2) 状況

① 年度別外来受診・健診の状況

(人)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
外来受診	14,366	13,539	13,612	13,045	13,120	11,595
健 診	6,400	6,715	7,189	1,513	1,557	2,073
計	20,766	20,254	20,801	14,558	14,677	13,668

② 外来患者年度推移



(2) 入院状況

1) 概要

呼吸器疾患の専門性や一般病棟と療養病棟の併設メリットを活かしながら、「信頼される医療の確保」、「心のかよう看護の推進」に取り組んでいる。

機能性と安全性を重視した医療設備により、専門的で人に優しい医療の提供を行っている。

病棟
看護体制

結核46床 (内休止26床) 一般40床 療養40床
2交代制

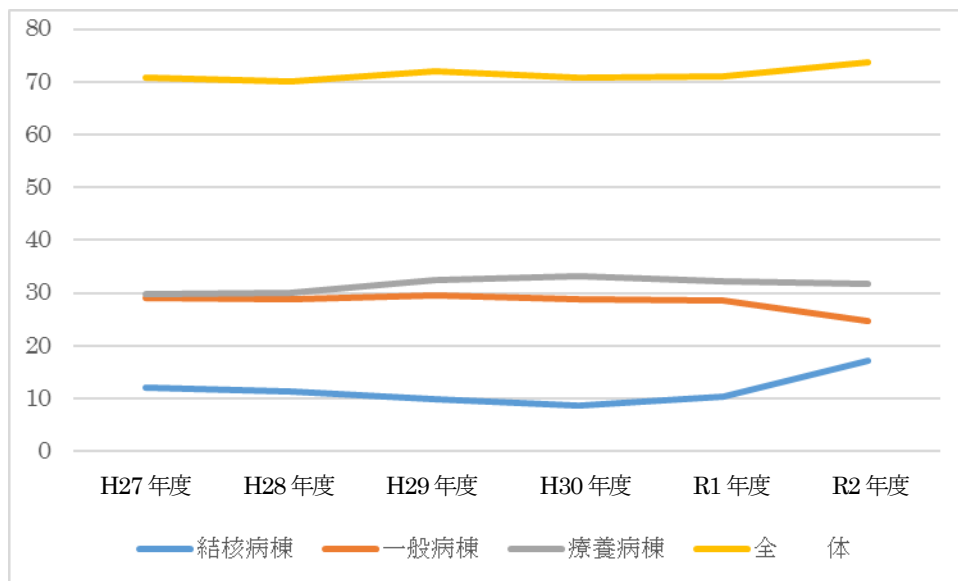
2) 状況

① 年度別入院患者の状況 (1日当たりの患者数)

(人)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
結核病棟	12.1	11.3	9.8	8.7	10.3	17.1
一般病棟	29.1	28.7	29.6	28.8	28.5	24.7
療養病棟	29.7	30.1	32.5	33.2	32.2	31.8
全 体	70.9	70.1	71.9	70.7	71.0	73.6

② 入院患者年度推移



(3) リハビリテーション

各種リハビリ機器を備えた訓練室と理学療法士による専門的リハビリにより、QOLを高めるとともに機能回復に努めている。

本院は、呼吸器の専門病院でもあるため、COPDなど呼吸器疾患の患者に呼吸方法の指導や運動療法など、在宅での自己管理についても指導している。

(4) 先進の医療機器による検査

早期発見、早期治療のため、電子内視鏡、超音波断層装置、CT、MRIを活用し、的確な診断のもとに治療を行っている。

(5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供

医療安全管理委員会、感染予防対策委員会などの各委員会の活性化を図り、安全・安心な医療サービスの提供に努めている。

また、小集団活動で病棟の清潔な環境確保等に取り組むとともに、高齢者にも食べやすく美味しいソフト食の提供など調理方法の工夫を行っている。

(6) 地域連携の推進

地域連携室を設け、地域の病院や診療所と連携し、紹介患者のスムーズな受け入れに努めており、入院患者の約7割が地域の病院・診療所からの紹介となっている。

また、開業医との連携を密にし、短期入院患者の受け入れに努めるとともに、平成22年度から退院支援調整室を設置し退院支援等を実施している。

(件)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
退院支援計画書作成件数	71	80	81	92	135	105
介護支援連携指導件数	49	51	57	84	120	81

(7) 結核医療連携拠点病院の指定

平成25年2月に岡山県から結核診療連携拠点病院に指定され、結核患者への高度医療提供、研修会の開催、医療機関からの相談等を行っている。

相談件数

(件)

相談機関	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
病院	36	51	64	42	50	109
診療所	12	14	12	13	5	11
高齢者施設	3			3	4	1
保健所	4	3			1	
大学、学校	1		2	1		
その他	2	8		5	1	
計	58	76	78	64	61	121

(8) 指導・相談

1) 医療相談

医療ソーシャルワーカーを中心に、入院相談や退院支援を行うとともに、地域医療機関や老健・介護保健施設との連携に努めている。

また、患者サポート体制の充実に取り組み、入院、外来患者の心理的・経済的な相談・支援に取り組んでいる。

2) 服薬指導

薬剤師が正しい薬の知識をわかりやすく説明している。また、症状にあった正しい服薬について指導を行っている。

3) 栄養指導

管理栄養士が個人の病状にあった、実行可能で長続きする食事療法の指導を行っている。

服薬・栄養指導件数

(件)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
服薬指導	642	247	451	409	375	331
栄養指導	554	621	595	615	441	323

(9) 財団各部門との連携

人間ドック、保健部、南部健康づくりセンターと連携し、地域住民の生活習慣病予防対策に取り組んでいる。

(10) 難病相談・支援事業

岡山県から「岡山県難病相談・支援センター業務」を受託し（平成16年10月～）、難病患者やその家族からの療養上の悩みや不安、就労等に関する相談に対応している。

相談件数

(件)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
電話相談	561	722	609	492	404	378
面接相談	150	250	177	112	95	62
メール相談	72	102	58	41	6.9	20
合計	783	1,074	844	645	568	460

交流会、研修会の開催

定例患者交流会等 (平成27年度 30回、平成28年度 31回
平成29年度 30回、平成30年度 30回
令和1年度 28回、令和2年度 19回)

6 南部健康づくりセンター

南部健康づくりセンターは、健康増進に関する実践の場の提供と調査・研究等を行う健康づくりの拠点施設として岡山県が整備した施設であり、当財団が県からの指定管理を受け、プール・ジム・スタジオを備えた健康増進施設を管理・運営するとともに、健康増進に係る教育・研修事業、調査・研究事業などを行っている。

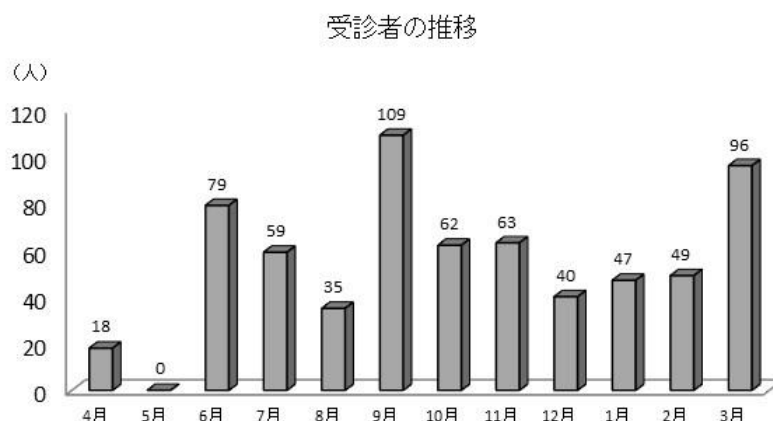
(1) 健康増進事業

1. ヘルスチェックの状況

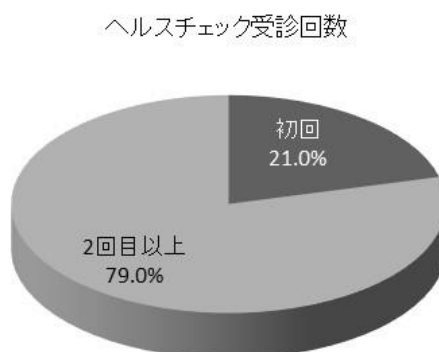
健康増進施設は会員制としており、入会時および入会后1年ごとに利用者の運動能力・機能の測定と健康状態の確認（ヘルスチェック・メディカルチェック）を行い、利用者の方々に安全に施設を利用していただくとともに、健康増進に役立てていただけるように、運動・食事・休養の3分野にわたる運動指導・健康指導を実施している。

1) 受診者の推移

ヘルスチェック受診者は年間657人、1ヵ月平均55人であった。

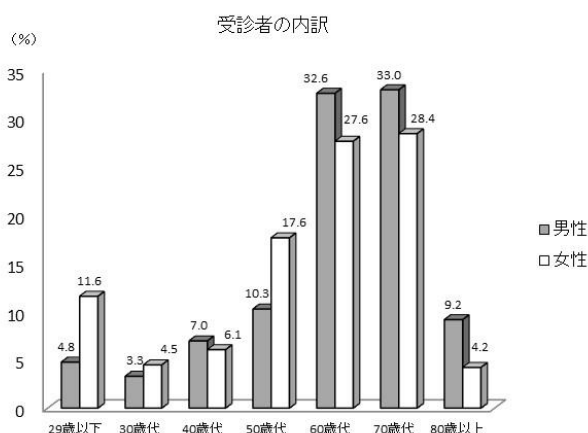


ヘルスチェックの受診回数は、初回（入会時）が21.0%、2回目以上が79.0%であった。



2) 受診者の内訳

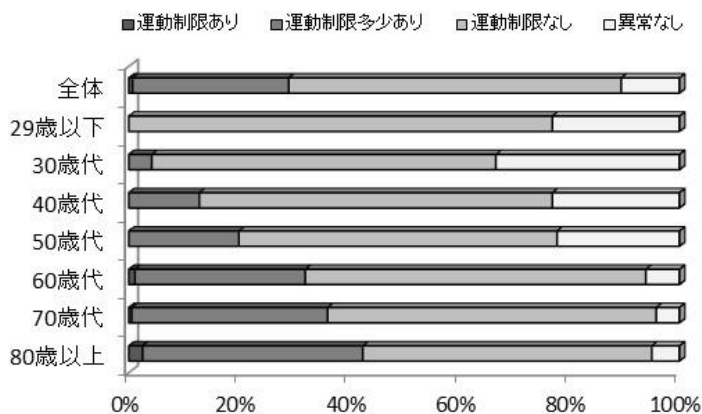
ヘルスチェック受診者の内訳を性別で見ると男性が41.8%、女性が58.2%であった。年代別で見ると男性、女性ともに70歳代が最も多かった。



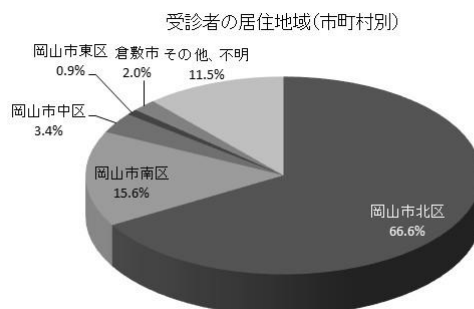
上記のように当施設の利用者には高齢者が多く、内科的疾患、整形外科的疾患などで治療中の人も少なくない。このため、疾病の有無を確認するとともに、疾病がある場合には何らかの運動制限が必要かどうかを判定し、利用者に安全に運動を行っていただけるよう指導している。

その運動制限の程度をみると、何らかの運動制限のあった人は全体では29.1%であったが、60歳代では32.0%、70歳代では36.1%、80歳代では42.5%であった。

受診者の運動制限

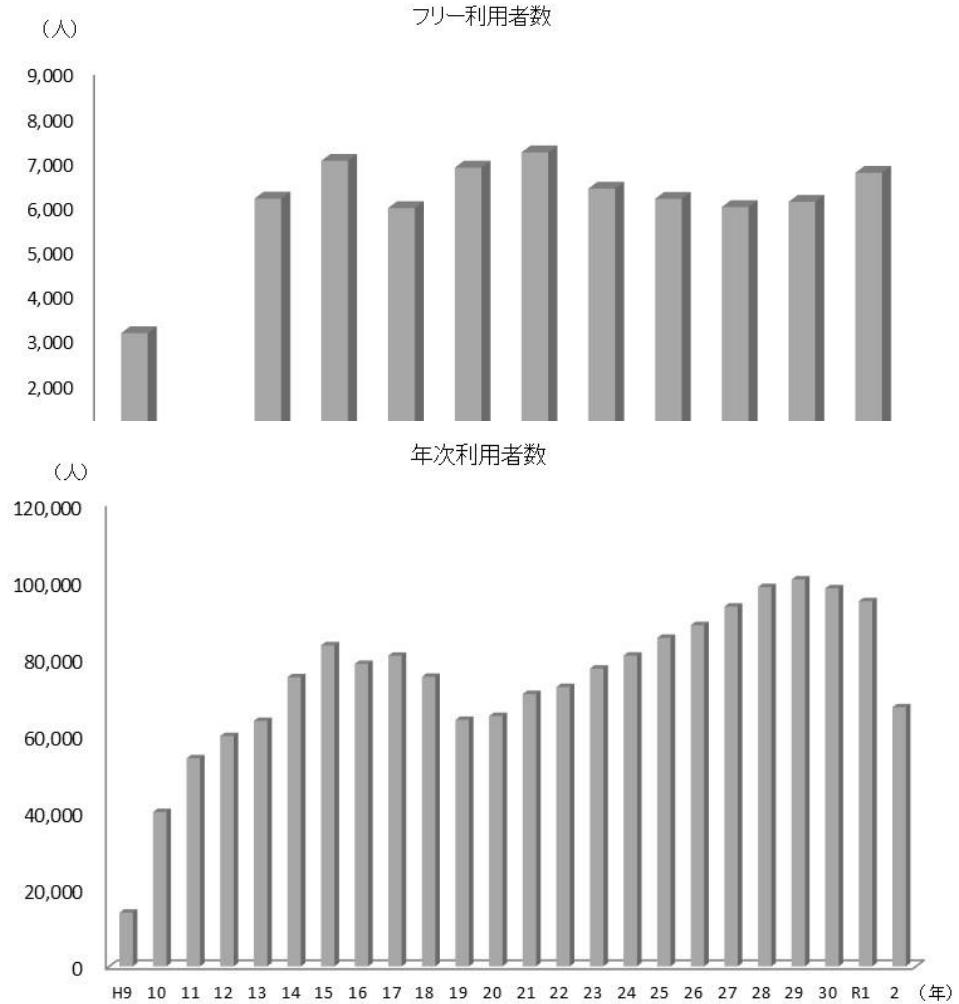


ヘルスチェック受診者の居住地を市町村別にみると、全受診者のうち86.5%が岡山市に在住し、ついで倉敷市が多かった。



2. 増進施設利用状況

増進施設会員の延べ利用者数とビジター（利用当日のみの利用者）の延べ利用者数の合計は、年間 67,251 人、1 ヶ月平均 5,604 人、1 日平均 251 人であった。



※なお、平成 30 年度以降は集計方法変更（同一会員が 1 日に複数回利用した場合の集計を 1 回に変更）のため、また、令和 2 年度はコロナ禍による会員の減少と、緊急事態措置等により 4 月 21 日～5 月 31 日を閉館したため前年度よりも利用者数が減少している。

3. お手軽教室

増進施設の会員を対象として、追加料金なしで自由に参加できる運動教室を施設内のプール・スタジオ・ジムで開講している。

1) 教室内容

年間で計 68 教室を開講した。

週あたりのお手軽教室開講数（令和 2 年 11 月現在）

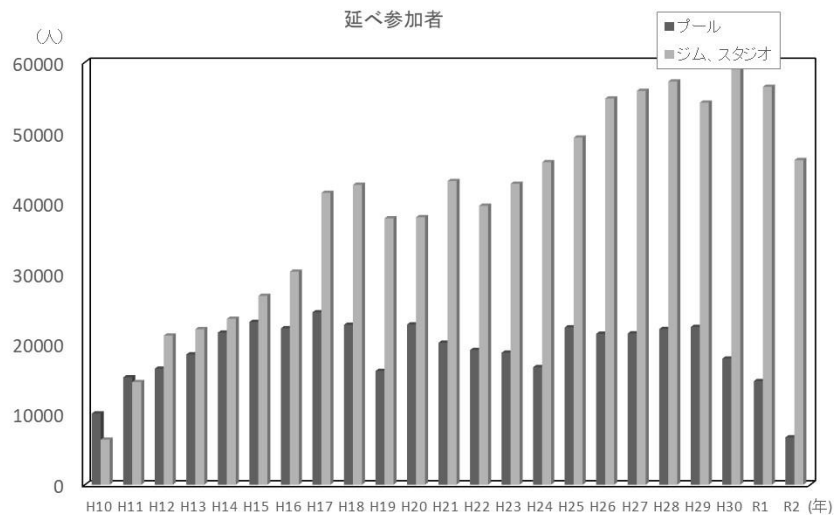
エアロビックダンス	初心者エアロ	1
	シンプルエアロ	2
	かんたんエアロ	2
	やさしいエアロ	4
	ちょっとがんばるエアロ	3
	オリジナルエアロ	3
	なかなかエアロ	2
	ダンスエアロ	1
ジム	ラジオ体操	1
	膝腰スッキリマット	2
	ひきしめステップ	1
	おまかせマット	1
	すわって健脚ストレッチ	1
	すわって健脚体操	2
	すわってスッキリ体操	1
	すわってルンルンビクス	1
	しっかり元気健脚	1
	やさしいステップ	1
	エンジョイステップ	1
	すっきりストレッチ	1
	ひきしめボディ	2
	ひきしめサーキット	1
	ラントレーニング	1
	チューブ体操	1
	チェアビクス	1
マットオリジナル	1	
太極拳	はじめての太極拳	1
	太極拳	1
	太極養生体操	1
水中運動	おまかせアクア	4
	アクアビクス	1

水泳	超初級スイム	1
	超初級・初級スイム	1
	中級スイム	1
	上級スイム	1
	中上級インターバル	1
その他	ストレッチポール	2
	マットオリジナル	1
	ストレッチヨガ	2
	オリジナルヨガ	1
	パワーヨガ	1
	シェイプヨガ	1
	バレトン or ポル・ド・ブラ	1
	オリジナルヨガ or ピラティス	1
	ピラティス	1
	エンジョイフラ	2
	アルティメットボクシング	1
	バレトン	1
	おまかせマット	1

2) 参加者の推移

コロナ禍による会員減少と、緊急事態措置等により4月21日～5月31日を閉館した影響から、お手軽教室の延べ参加者数は52,835人と前年度より減少している。

また新型コロナウイルス感染予防のため、プール教室の回数を減らした事により、プール教室の延べ参加者数も6,733人と前年度より減少し、全体の約1割であった。



4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室

食事を通じた健康づくりの普及・発展に資するために、南部健康づくりセンター内で栄養講座・料理教室を開催している。

健康づくり栄養講座は、全10回の開催で延べ81名の参加者、初心者のための栄養講座は、全8回の開催で延べ51名の参加者があった。外部講師による料理教室は、全6回の開催で延べ51名の参加があった。

健康づくり栄養講座

開催日	テーマ	講話内容	参加人数
4月17日	カルシウムいっぱい 骨を強くするレシピ	骨を強くするためには	7
6月24日	旬の食材で栄養満点！ イタリア料理	食生活と歯の健康について	12
8月21日	より美しく より健康に 脂肪燃焼レシピ	夏の効果的なダイエット	11
8月26日			5
10月16日	長寿食といわれる 沖縄料理を作ろう	フレイル予防の食事	7
10月28日			6
12月18日	おしゃれにアレンジ！！ おせち料理	胃にやさしい食事	9
12月23日			12
2月10日	おいしい！食べたい！ 北海道のあったか料理	認知症予防の食事	7
2月19日			5

初心者のための栄養講座

開催日	テーマ	参加人数
7月11日	火を使わずにできる！ レンジで蒸し鶏	8
7月15日		4
9月12日	おもてなしやおつまみにも！ れんこんのえびはさみ焼き	7
9月16日		4
11月14日	ミートローフ	9
11月18日		4
1月9日	麻婆豆腐	7
3月13日	魚の西京焼き	8

外部講師料理教室

開催日	テーマ	内容	参加人数
9月25日	小野靖子先生料理教室 秋の夜長、家飲み時間とおつまみを愉しむ パンとスープ&パフェ	秋野菜のタルティーヌ(白桃フレンチマヨネーズ使用)、里芋豆乳ポタージュ、季節のパフェ	7
10月23日		玄米入り和風ピザ3種類(天然酵母)、和風ミネストローネ、季節のパフェ	9
11月27日		ライ麦粉入りウインナーパン(天然酵母)、チキンのマスタートソース煮、季節のパフェ	8
1月22日	心も体もあつたまろう 小野靖子先生料理教室	「2021年バレンタインはこれ！」ショコラタルティーヌ、絶品ナポリタン	12
3月12日		「寒い日は、焼き菓子&スパイスチャイでティータイム」タルトタタン、林檎のパン、チャイ	10
3月26日		「チーズ好きにはたまらない」タルトフランベ、カボチャとチキンのグラタン	5

5. リラクゼーションセミナー

健康増進のためには食事・運動とともに休養も重要である。そこで休養を通じた健康づくりの普及・発展に資するために、南部健康づくりセンター内でリラクゼーションセミナーを開催している。

リンパマッサージのテーマで外部講師を招き、3回実施した。各教室90分間で、テーマに沿った講話やリラクゼーション実技を行った。延べ16名の参加があり、女性の参加が多く、年齢は20～70歳代と幅広かった。

開催日	テーマ	参加人数
2020年8月19日(水)	お疲れ顔リセット!!顔周りのリンパケア	10
2020年10月7日(水)	手足のむくみ緩和マッサージ	4
2020年12月9日(水)	冷えや便秘解消の腸セラピー	2

6. 健康増進指導体験事業

地域における健康増進の中心的役割を担うグループ・人々を対象に、運動・食事・休養にもとづいた健康増進のための指導を体験してもらい、地域での展開に資することを目的として健康増進指導体験事業を行っている。

年間の利用件数は0件であった。

(2) 教育・研修事業など

1. 講師派遣事業

岡山県内の各種団体・企業からの依頼を受け、健康増進のための運動・食事・休養などについての講演・セミナーなどの講師として、南部健康づくりセンター内の職員を派遣した。

年間を通して25件の派遣依頼を受託した。

実施日	実施元	人数	会名・講座名	派遣者
7/21	岡山県老人クラブ連合会	500 枚程 度	テキスト・DVD制作	森下 明恵 豊田 加奈子 高橋 卓也
8/7	備中県民局地域政策部高梁地域総務課	20	ストレートネック解消講座	斉藤 剛
10/1	地方職員共済組合岡山県支部	50	健康教室	高橋 卓也
10/8	岡山県難病相談・支援センター	10	患者交流会 のびのびストレッチ	高橋 卓也
10/13	真庭市愛育委員会	44	真庭市愛育委員会北部支部研修会 からだが喜ぶ食事のコツ	豊田 加奈子
10/21	真庭市愛育委員会	47	真庭市愛育委員会北部支部研修会 からだが喜ぶ食事のコツ	豊田 加奈子
10/30	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 岡山支部	20	健康講話 ストレートネックの改善・予防について	斉藤 剛
11/6	地方職員共済組合岡山県支部	50	健康教室	斉藤 剛
11/13	赤磐市役所	40	栄養教室 椅子を使った日頃から簡単にできる運動実習	斉藤 剛
11/18	地方職員共済組合岡山県支部	50	健康教室	川上 和真
12/2	赤磐市	17	生活習慣病予防教室	斉藤 剛 国橋 由美子
12/3	備前市吉永地区老人クラブ連合会	50	健康体操講習会	高橋 卓也
12/3	岡山県工業技術センター	25	メンタルヘルス研修会 上手な心と体の休め方について	後藤 礼子
12/4	地方職員共済組合岡山県支部	50	健康教室	川上 和真
12/9	赤磐市	17	生活習慣病予防教室	国橋 由美子
12/11	RSK 山陽放送(株)	1	情報ワイドあれスタ収録 かけっこ指導	川上 和真
12/24	赤磐市	15	生活習慣病予防教室	国橋 由美子 豊田 加奈子
1/21	(公財)岡山県産業振興財団	50	健康管理研修	後藤 礼子
1/26	地方職員共済組合岡山県支部	30	健康教室	後藤 礼子

1/28	地方職員共済組合岡山県支部	30	健康教室	斉藤 剛
1/29	(公財)岡山県産業振興財団	50	健康管理研修	後藤 礼子
2/3	(公財)岡山県産業振興財団	50	健康管理研修	後藤 礼子
2/4	備中県民局総務課	20	職員研修 ストレッチ教室 ～寒いときこそしっかり体を動かそう！～	高橋 卓也
2/5	(公財)岡山県産業振興財団	50	健康管理研修	後藤 礼子
3/3	岡山市市民生活局市民生活部 生活安全課消費生活センター	31	岡山市消費生活講演会	豊田 加奈子

2. 図書の貸し出し（沼田文庫）

一般書から専門書まで健康増進に係る図書を整備し、閲覧・貸出できるようにしている。

令和2年度で貸し出しを受けた人数、貸し出された図書の冊数は、1年間で26名、48冊の利用があった。なお、新型コロナウイルス感染対策のため、令和2年4月20日より図書の閲覧及び貸し出しを中止している。

3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室

南部健康づくりセンター内の会議室の貸し出しを行っている。なお、新型コロナウイルス感染対策のため、令和2年3月から6月まで外部への貸し出しを停止した。7月より多目的聴講室以外の貸し出しを再開した。

1) 大会議室

貸し出し件数は、年間8件であった。

2) 小会議室

貸し出し件数は、年間27件であった。

3) 栄養指導室

貸し出し件数は、年間12件であった。

4) 多目的聴講室

貸し出し件数は、年間0件であった。

4. 研究室の開放

南部健康づくりセンター内の研究室の年間契約による貸し出しを行っている。貸し出し件数は、年間2件であった。

(3) 調査・研究事業

1. 業績

1) 論文

- ア マラソン大会におけるトランスジェンダーの参加カテゴリー 大会主催者による競技の公平性と性自認の尊重のバランス

関明穂、鈴木久雄、中塚幹也(GID (性同一性障害) 学会雑誌. 13 : 55-62, 2020)

- イ 健診受診者での座位行動と精神的健康度との関連

青山友子、宮武伸行、国橋由美子、関明穂 (地域環境保健福祉研究 23 : 1-4, 2020)

2) 研究助成

- ア 人口減少時代における市町村がん検診のサステナビリティ (持続可能性)

研究責任者：佐藤利雄 (岡山県健康づくり財団健康づくり総合センター)

研究協力者：伊藤武彦 (岡山大学教育学部)

関明穂 (南部健康づくりセンター)

岸本寿男 (岡山県健康づくり財団保健部)

岡山県健康づくり財団「がんに関する研究助成金」

3) 自主研究

- ア 新型コロナウイルス感染症予防対策としての運動施設閉鎖が利用者の体力に及ぼす影響とその回復

佐藤利雄・関明穂・森下明恵・斉藤剛・国橋由美子・後藤礼子

概要：

南部健康づくりセンター増進部門はコロナ禍による緊急事態措置等のために令和2年4月21日～5月31日を閉鎖した。これに伴い施設利用者の身体活動量が減少し、体力低下、体重増加を初めとした健康維持についての問題などが生じてしまう可能性が懸念された。そこで、施設休館に伴う利用者の体力変化を確認し、安全、適切に当施設での運動を実施していただくことを目的として調査、研究を行った。

岡山県健康づくり財団倫理委員会承認 (岡健倫第1号 : 2020年6月1日)

(4) 健康診断（人間ドック）部門

1. 人間ドック

1) 受診者の内訳

年間で10,444件(男性6,254人、女性4,146人、計10,400人)の受診があり、前年度比100.5%の受診者数となった。

2) 検査項目別

部位・臓器・検査方法別の検査結果を以下に示す。

なお、現在医療機関でそれぞれの検査項目に関して治療中か経過観察中のものを「治療中」とした。それ以外のもののうち、検査項目内の結果がすべて正常であったものを「異常なし」、いずれかの検査結果が正常範囲からはずれているが問題ない範囲のものを「有所見」、経過観察が必要なものを「要観察」、医療機関での精密検査あるいは治療を要するものをそれぞれ「要精検」「要治療」とした。

また、「異常なし」「有所見」以外のものをまとめて「要観察以上」、検診によって新たに医療を要することが指摘された「要精検」「要治療」をまとめて「要医療」とし、各検査項目の受診者全体に対する「要観察以上」「要医療」のものの割合を算出した。

① 肥満度

BMI18.5未満を低体重、18.5以上25.0未満を普通体重、25.0以上30.0未満を肥満1度、30.0以上35.0未満を肥満2度、35.0以上40.0未満を肥満3度、40.0以上を肥満4度とした。

肥満1度以上のものは男性2,307人(37.2%)、女性744人(21.9%)であった。

	受診者数	低体重	普通体重	肥満1度	肥満2度	肥満3度	肥満4度
		-18.49	18.5-24.9	25.0-29.9	30-34.9	35-39.9	40-
男性(人)	6208	163 (2.6%)	3738 (60.2%)	1878 (30.3%)	351 (5.7%)	66 (1.1%)	12 (0.2%)
女性(人)	3395	394 (11.6%)	2257 (66.5%)	547 (16.1%)	152 (4.5%)	32 (0.9%)	13 (0.4%)

② 血圧

収縮期血圧 134mmHg 以下、拡張期血圧 85mmHg 以下を正常値、収縮期血圧 139mmHg 以下、拡張期血圧 89mmHg 以下を参考基準値とし、「治療中」ではないもので収縮期血圧、拡張期血圧ともに正常値であるものを「異常なし」、いずれかが正常値を超えるものの参考基準値は超えないものを「有所見」とした。

男性の 1,955 人 (31.6 %)、女性の 547 人 (16.1 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 1,169 人 (18.9 %)、女性 298 人 (8.8 %)、「要医療」のものは男性 204 人 (3.3 %)、女性 49 人 (1.4 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6196	3588 (57.9%)	653 (10.5%)	582 (9.4%)	0 (0.0%)	204 (3.3%)	1169 (18.9%)
女性(人)	3389	2608 (77.0%)	234 (6.9%)	200 (5.9%)	0 (0.0%)	49 (1.4%)	298 (8.8%)

③ 心電図

男性の 511 人 (8.3 %)、女性の 147 人 (4.4 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 202 人 (3.3 %)、女性 42 人 (1.2 %)、「要医療」のものは男性 43 人 (0.7 %)、女性 14 人 (0.4 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6185	4701 (76.0%)	973 (15.7%)	266 (4.3%)	43 (0.7%)	0 (0.0%)	202 (3.3%)
女性(人)	3379	2791 (82.6%)	441 (13.1%)	91 (2.7%)	14 (0.4%)	0 (0.0%)	42 (1.2%)

④ 検尿

男性の 1,165 人 (18.8 %)、女性の 1,109 人 (32.8 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 105 人 (1.7 %)、女性 22 人 (0.7 %)、「要医療」のものは男性 203 人 (3.3 %)、女性 226 人 (6.7 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6185	4112 (66.5%)	908 (14.7%)	857 (13.9%)	203 (3.3%)	0 (0.0%)	105 (1.7%)
女性(人)	3380	1353 (40.0%)	918 (27.2%)	861 (25.5%)	225 (6.7%)	1 (0.0%)	22 (0.7%)

⑤ 肝機能

男性の1,741人(28.2%)、女性の339人(10.0%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性310人(5.0%)、女性71人(2.1%)、「要医療」のものは男性457人(7.4%)、女性78人(2.3%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6184	2808 (45.4%)	1635 (26.4%)	974 (15.8%)	457 (7.4%)	0 (0.0%)	310 (5.0%)
女性(人)	3380	2418 (71.5%)	623 (18.4%)	190 (5.6%)	78 (2.3%)	0 (0.0%)	71 (2.1%)

⑥ 脂質異常症

男性の3,269人(52.8%)、女性の1,320人(39.0%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性1048人(16.9%)、女性390人(11.5%)、「要医療」のものは男性344人(5.6%)、女性120人(3.5%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6187	1535 (24.8%)	1383 (22.4%)	1877 (30.3%)	98 (1.6%)	246 (4.0%)	1048 (16.9%)
女性(人)	3384	1170 (34.6%)	894 (26.4%)	810 (23.9%)	6 (0.2%)	114 (3.4%)	390 (11.5%)

⑦ 耐糖能異常

男性の1,520人(24.6%)、女性の445人(13.2%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性562人(9.1%)、女性96人(2.8%)、「要医療」のものは男性188人(3.0%)、女性52人(1.5%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6188	2661 (43.0%)	2007 (32.4%)	770 (12.4%)	126 (2.0%)	62 (1.0%)	562 (9.1%)
女性(人)	3384	1960 (57.9%)	979 (28.9%)	297 (8.8%)	35 (1.0%)	17 (0.5%)	96 (2.8%)

⑧ 尿酸

男性の1,660人(27.1%)、女性の60人(1.8%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性565人(9.2%)、女性10人(0.3%)、「要医療」のものは男性50人(0.8%)、女性3人(0.1%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6123	4453 (72.7%)	10 (0.2%)	1045 (17.1%)	0 (0.0%)	50 (0.8%)	565 (9.2%)
女性(人)	3353	3286 (98.0%)	7 (0.2%)	47 (1.4%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)	10 (0.3%)

⑨ 血液一般

男性の691人(11.2%)、女性の698人(20.7%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性38人(0.6%)、女性83人(2.5%)、「要医療」のものは男性164人(2.7%)、女性215人(6.4%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6184	3778 (61.1%)	1715 (27.7%)	489 (7.9%)	160 (2.6%)	4 (0.1%)	38 (0.6%)
女性(人)	3380	1920 (56.8%)	762 (22.5%)	400 (11.8%)	155 (4.6%)	60 (1.8%)	83 (2.5%)

⑩ 超音波検査

腹部超音波検査により肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓等の検査を行った。
男性の1,883人(57.7%)、女性の728人(42.5%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性10人(0.3%)、女11人(0.6%)、「要医療」のものは男性34人(1.0%)、女性25人(1.5%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	3265	704 (21.6%)	678 (20.8%)	1839 (56.3%)	34 (1.0%)	0 (0.0%)	10 (0.3%)
女性(人)	1713	652 (38.1%)	333 (19.4%)	692 (40.4%)	25 (1.5%)	0 (0.0%)	11 (0.6%)

⑪ 胸部X線検査

CR装置による直接撮影を行った。

男性の285人(4.6%)、女性の94人(2.8%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性58人(0.9%)、女性23人(0.7%)、「要医療」のものは男性107人(1.7%)、女性43人(1.3%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6165	5062 (82.1%)	818 (13.3%)	120 (1.9%)	107 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (0.9%)
女性(人)	3335	2927 (87.8%)	314 (9.4%)	28 (0.8%)	43 (1.3%)	0 (0.0%)	23 (0.7%)

⑫ 胃部造影検査

DR装置による直接撮影を行った。

男性の1,829人(32.6%)、女性の662人(24.4%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性3人(0.1%)、女性1人(0.04%)、「要医療」のものは男性142人(2.5%)、女性37人(1.4%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5609	2698 (48.1%)	1082 (19.3%)	1684 (30.0%)	139 (2.5%)	3 (0.1%)	3 (0.1%)
女性(人)	2717	1068 (39.3%)	987 (36.3%)	624 (23.0%)	37 (1.4%)	0 (0.0%)	1 (0.04%)

⑬ 上部消化管内視鏡検査

上部消化管検査として造影検査に変えて内視鏡検査を505人に実施した。

男性の234人(66.5%)、女性の74人(48.4%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性2人(0.6%)、女性0人(0.0%)、「要医療」のものは男性12人(3.4%)、女性2人(1.3%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	352	23 (6.5%)	94 (26.7%)	220 (62.5%)	10 (2.8%)	2 (0.9%)	2 (0.6%)
女性(人)	153	16 (10.5%)	63 (41.2%)	72 (47.1%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

⑭ 骨密度検査

DXA 法により第2～第4腰椎正面の骨密度を測定した。

男性の9人(47.4%)、女性の172人(75.4%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性0人(0.0%)、女性25人(11.0%)、「要医療」のものは男性1人(5.3%)、女性19人(8.3%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	19	10 (52.6%)	0 (0.0%)	8 (42.1%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性(人)	228	56 (24.6%)	0 (0.0%)	128 (56.1%)	19 (8.3%)	0 (0.0%)	25 (11.0%)

3) 婦人科検診

① 乳がん検診

乳がん検診としてマンモグラフィ、乳房超音波検査と乳房視触診を行った。乳房超音波検査では、硬さの指標となるエラストグラフィも併用して行った。なお、乳房視触診は検診委託元から実施依頼があった場合に限り実施した。

乳がん検診の総受診者数は2,698人であり、そのうち、マンモグラフィ受診者は1,806人、乳房超音波検査受診者は1,389人であった。乳房視触診は696人に実施したが、そのうち37人については乳房視触診のみの実施であった。

乳がん検診受診者の175人(6.5%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは22人(0.8%)、「要医療」のものは85人(3.2%)であった。マンモグラフィに限ると、110人(6.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは8人(0.4%)、「要医療」のものは73人(4.0%)であった。また、乳房超音波検査に限ると、46人(3.3%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは9人(0.6%)、「要医療」のものは8人(0.6%)であった。

乳がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	2698	654 (24.2%)	1869 (69.3%)	68 (2.5%)	85 (3.2%)	0 (0.0%)	22 (0.8%)
マンモグラフィ	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	1806	286 (15.8%)	1410 (78.1%)	29 (1.6%)	73 (4.0%)	0 (0.0%)	8 (0.4%)
乳房超音波	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	1389	614 (44.2%)	729 (52.5%)	29 (2.1%)	8 (0.6%)	0 (0.0%)	9 (0.6%)

② 子宮がん検診

子宮がん検診として、子宮頸部細胞診と婦人科診察、経膈超音波検査を行った。検診の受診者数は2,399人であった。

受診者の458人(19.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは46人(1.9%)、「要医療」のものは243人(10.1%)であった。なお、子宮頸部細胞診で「要精検」であったものは58人(2.4%)であった。

子宮がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	2399	1940 (80.9%)	1 (0.1%)	169 (7.0%)	184 (7.7%)	59 (2.5%)	46 (1.9%)

2. 脳ドック

脳ドックの受診者数は299人(男性207人、女性92人)であった。

男性の22人(10.6%)、女性の9人(9.8%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性0人(0.0%)、女性1人(1.1%)、「要医療」のものは男性15人(7.2%)、女性3人(3.3%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	207	117 (56.5%)	68 (32.9%)	7 (3.4%)	15 (7.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性(人)	92	49 (53.3%)	34 (37.0%)	5 (5.4%)	3 (3.3%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)

3. らせんCT胸部検診

らせんCT胸部検診の受診者数は312人(男性271人、女性41人)であった。

男性の61人(22.5%)、女性の6人(14.6%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性4人(1.5%)、女性2人(4.9%)、「要医療」のものは男性13人(4.8%)、女性1人(2.4%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	271	20 (7.4%)	190 (70.1%)	44 (16.2%)	13 (4.8%)	0 (0.0%)	4 (1.5%)
女性(人)	41	3 (7.3%)	32 (78.0%)	3 (7.3%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	2 (4.9%)

(5) 健康診断(施設健診)部門

平成30年4月より附属病院の健康診断部門を引き継ぎ、事業所法定健診・特殊健診・特定健診・後期高齢者健診・岡山市がん検診等を実施している。

1. 令和2年度健診種別件数 (人)

事業所健診 (一般定期)	事業所健診 (特 殊)	個人健診 雇入れ健診	岡山市がん検診 (胃・大腸・肺)	特定健診	後期高齢者 健診
4188	354	400	690	589	23

2. 令和2年度岡山市がん検診要精密検査数 (人)

種 別	受診者数	要精検者数
胃がん(胃 XP 検査)	71	3
胃がん(胃内視鏡)	19	0
肺がん	296	5
大腸がん	285	16

3. 令和2年度特定健診保健指導対象者数 (人)

健康保険組合名	実施者数	動機づけ支援	積極的支援
岡山市国民健康保険組合	312	37	16
全国健康保険協会(協会けんぽ)	121	8	1
日本私立学校振興・共済事業団	100	14	1

7 普及啓発事業

(1) 財団の広報

ホームページの更新、広報誌の発行、他団体広報誌へ記事の提供等を通して、財団の広報に努めた。

1) 広報誌の発行

広報誌「健康と環境」を1回発行し、事業の紹介と県民の健康づくり、環境保全に関する意識の高揚を図った。

- ・発行部数 第80号 5,000部 (4月20日発行)
- ・主要配布先 県、市町村、教育委員会、学校、警察署、保健所、近隣町内会、医師会、病院協会、福祉施設、事業所等

2) ホームページ更新

財団ホームページに、財団の事業紹介、健康情報・生活環境に関する情報提供、セミナーや教室の案内、各種行事の予定等を随時更新し、紹介した。

(2) 結核予防に関する事業

結核は、約60年前までは、死亡原因の第一位であったが医療や生活水準の向上により、薬による完治が可能になった。しかし依然として岡山県においても年間約200名の患者が発生する重大な感染症であることから啓発活動を行っている。

1) 広報・募金活動

結核予防思想の普及と事業資金確保のため世界中で行われている複十字シール運動(8月1日～12月31日)について、県、市町村及び岡山県愛育委員連合会の協力を得て、積極的に普及啓発活動及び募金活動を実施した。また結核予防週間(9月24日～30日)を中心に結核予防に関するポスター(3,000部)等の広報資材を、保健所、市町村、病院等を通じて広く県民に配布し啓発に努めた。

例年、「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」に呼応して、県、岡山市、岡山県、結核予防婦人会・岡山県愛育委員連合会及び岡山県診療放射線技師会との共催により、街頭での募金協力の呼びかけなどを実施しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止とした。

- ・募金額 2,001,330円 (令和3年3月31日現在)
- ・募金の使途 胸部疾患予防思想の普及啓発事業

2) 知事表敬訪問

例年、全国一斉複十字シール運動（8月1日～12月31日）の開始に合わせて、理事長が岡山県結核予防婦人会・岡山県愛育委員連合会長とともに知事を表敬訪問し、結核の現状報告及び複十字シール運動への理解と協力を要請しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止とした。

(3) がん予防に関する事業

1) 「がん征圧事業功労感謝状・がん研究助成金贈呈式」の開催

例年9月のがん征圧月間において、県、岡山県医師会との共催により、「がん征圧岡山県大会」を開催しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、規模を縮小し、9月7日に南部健康づくりセンターで、「がん征圧事業功労感謝状・がん研究助成金贈呈式」を開催し、がん対策功労者の表彰及びがん研究者に対する助成金の贈呈を行った。

2) キャンペーン放送の実施

岡山県医師会との共催により、山陽放送を通じて、テレビ1回、ラジオ2回のキャンペーン放送を実施した。

3) その他の啓発活動

がん検診の受診を推進するため、山陽放送においてラジオCMを20本放送した。また、日本対がん協会本部が作成したポスター2種類を各保健所・病院・学校等に配布し、がん検診受診の啓発及び予防意識の高揚に努めた。

4) 募金

看護協会から寄せられた2,199,140円をはじめ、554件、3,741,446円の募金を頂き、対がん活動資金として活用した。

(4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）

1) 街頭キャンペーンの実施

例年、5月31日の世界禁煙デーを中心に「街頭キャンペーン」を県・市町村職員、愛育委員、禁煙アドバイザー等の協力を得て、岡山駅等県内64ヶ所において実施するなど、県民の方々に禁煙を呼びかけているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止した。

2) ポスターコンクールの開催

例年、県下の小学校4年生から6年生を対象に、禁煙啓発ポスターコンクールを主催し、作品を募集しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止した。

3) 講師の派遣

教育機関、一般企業等で開催された禁煙に関する研修等に、医師を講師として派遣し禁煙の啓発に努めた。

4) 教材等の貸出

たばこの害についてのチラシの配布や、スモーカーライザーを貸し出し、教育機関や一般企業独自の啓発活動を支援した。

5) 募金

禁煙普及啓発を推進するために、当協議会に366件515,000円の募金を頂いた。

(5) 助成事業

1) がん助成

がんに関する研究・研修事業に対して助成を行った。

- ・胆管・胆嚢由来オルガノイドモデルを利用したエクソソーム解析による胆道癌診断マーカーの同定

岡山大学病院 消化器内科

助教 堤 康一郎 氏

- ・新規バイオチップを用いた消化器癌の血液循環癌細胞検出

岡山大学病院 消化器内科

講師 白羽 英則 氏

- ・人口減少時代における市町村がん検診のサステナビリティ（持続可能性）

岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター

センター長 佐藤 利雄 氏

2) 健康づくり関係団体への助成

県民の健康づくりを推進している、岡山県愛育委員連合会、岡山県栄養改善協議会の関係団体に助成を行った。

(6) 会議等の開催

区 分	開催 年月日	会 場	議 題
会計監査 第1回会計監査 第2回会計監査	R2. 4. 21 R2. 5. 25	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2 研修室2	1. 令和元年度決算について
業務監査	R2. 5. 27	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2	1. 令和元年度事業実績について 2. 令和元年度決算について
臨時理事会 (書面評決)	R2. 4. 1	—	1. 専務理事（業務執行理事）の選任
第1回理事会	R2. 6. 9	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 令和元年度事業報告 2. 令和元年度決算報告 3. 令和2年度第1回収支補正予算（案） 4. 定時評議員会の招集（案） 5. 公益財団法人JKA補助による検診車整備補助事業（案）
定時評議員会	R2. 6. 29	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 令和元年度決算報告 2. 理事の選任（案） 3. 令和元年度事業報告
臨時理事会 (書面評決)	R2. 9. 8	—	1. 評議員の選任について
臨時理事会 (書面評決)	R3. 2. 1	—	1. 公益財団法人岡山県健康づくり財団就業規則の一部改正（案）
第2回理事会	R3. 3. 23	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 公益財団法人岡山県健康づくり財団組織規則の一部改正（案） 2. 令和3年度事業実施計画（案） 3. 令和3年度収支計画（案）

令和2年度 事業年報

発行 公益財団法人 岡山県健康づくり財団
〒700-0952 岡山市北区平田 408-1
TEL 086-246-6254 FAX 086-246-6258
E-mail : zaidan@okakenko.jp